



HOSEI

学習支援ハンドブック2013
 MAKING THE MOST OF YOUR UNIVERSITY EDUCATION
 A Guide for Freshers

教育支援開発機構FD推進センター

学習支援ハンドブック 2013

MAKING THE MOST OF YOUR UNIVERSITY EDUCATION A Guide for Freshers

法政大学

学習支援
 ハンドブック
 2013

MAKING THE MOST OF



YOUR UNIVERSITY EDUCATION

A GUIDE FOR FRESHERS

法政大学

學而不思則罔
思而不學則殆

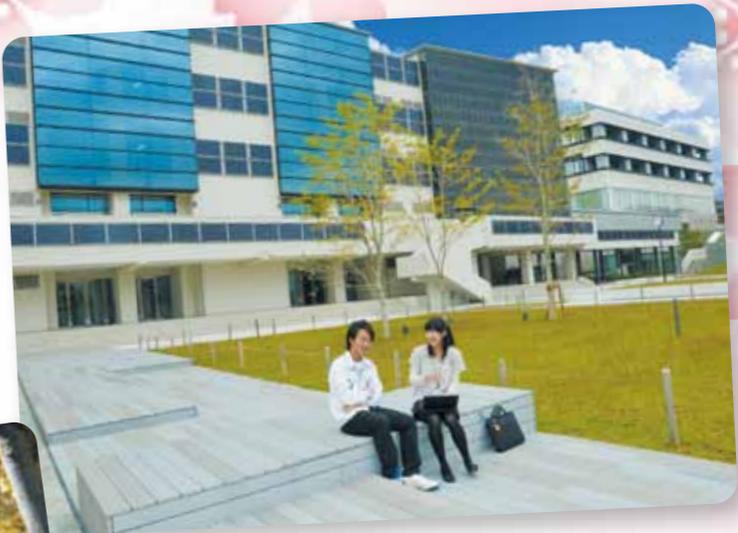
学びて思はざればすなはち罔くらく

—— いくら勉強したって、自分の頭で考えなきゃダメなんだ

思ひて学ばざればすなはち殆あやふし

—— いくら自分の頭で考えたって、勉強しなきゃダメなんだ

大内兵衛元総長の筆による論語の一節（市ヶ谷キャンパス55年館ホール）



INDEX

学習支援ハンドブック2013では、新入生のみなさんに早く大学生活に慣れていただけるように、大学生活で役立つ内容をいくつかピックアップしてご紹介いたします。どうぞご利用下さい。

法政大学ようこそ！

法政大学の歴史	4
校歌を知ろう！	10
法政大学のお宝コレクション	14
キャンパスマップ・私のキャンパス、ここがおすすめ！	
市ヶ谷キャンパス	18
多摩キャンパス	20
小金井キャンパス	22

大学での「学び」とは

時間割をつくる	24
履修や成績などにかかわる各種システムを利用しよう！	26
ノートの取り方	28
〔コラム〕受講のマナー	31
ブラインドタッチを習得しよう！	32
演習（ゼミ）	34
キャンパス紹介（市ヶ谷）	39

レポートを書く	40
〔コラム〕剽窃（plagiarism）とは	43
信頼できる情報を集める～図書館で・インターネットで～	44
レファンレンスカウンターを利用してみよう！	45
大学の図書館を使いこなそう！	46
インターネットで文献を探してみよう！	50
キャンパス紹介（多摩）	55
成績評価を受ける～GPAとは	56
授業改善アンケート	62
学生生活支援Q & A	66
あなたも挑戦してみよう！～法政大学のコンテスト・奨励制度～	70
キャンパス紹介（小金井）	73

FD学生の声コンクール作品集

2012年度 FD学生の声コンクール受賞作品集	74
座談会レポート「受けて良かった！受けてみたい！こんな授業」	92



法政大学によろこそ！

法政大学の歴史

これからあなたも法政大学コミュニティの一員です。15学部と大学院に在校生約3万5千人、教職員も千人超、卒業生累計43万を超える巨大な法政大学。あなたは、これほど多くの人々と「法政大学」というつながりで仲間になるのです。

法政大学にどのようなイメージを抱いていますか？ リベラルな学校？ スポーツの法政？それとも、つねにチャレンジし続ける大学、でしょうか？

とらわれない発想で新たな挑戦を続けるその精神——「自由と進歩」は、建学以来130年余の歴史の中で培われました。1880(明治13)年東京法学社として誕生して以来、本学はつねに激動する時代に応え、数々の人材を輩出してきました。

近代化の道を歩み始めたばかりの明治の日本が法律制度の整備のためにフランスから招いた法学者が、ボアソナードでした。その門下に学んだ若き法学者、薩埵正邦らが、当時、高まりを見せていた自由民権運動の気運の中で要請された、法律の実務と教育と二つの機能を併せ持つ東京法学社を設立。翌1881年には教育機能を独立させて東京法学校となりました。これが法政大学の母体です。

法政大学にはもう一つ、ルーツがあります。それはフランス学を教授するため、1886年に設立された東京仏学校です。神田小川町で隣り合い、同じフランス系であった両校は1889年に合併、新たに和仏法律学校として生まれ変わりました。

この時に選ばれたのが富士見の地——現在の市ヶ谷キャンパスのごく近く、やや東側です。江戸が都市として建設された時、その中心にあった江戸城（現在の皇居）の内濠と外濠の間であって、まさに東京の中心に位置します。江戸時代には、江戸城を取り囲むように数多くの旗本等の屋敷が並んでいた山の手の地です。

📖 法政大学の歴史については、諸資料がありますが、『法政大学 1880-2000：そのあゆみと展望』（法政大学 2000年）が写真や図なども交え、見やすくまとまっています。

市ヶ谷キャンパスの外濠校舎6階には法政大学の歴史についての展示もあります。一度見に行ってみるとよいですね。

📖 大久保泰甫著『日本近代法の父・ボアソナード』（岩波新書 1977年）



薩埵正邦 (1856-1897)

薩埵正邦は本学の前身である東京法学社創立の際、中心となって尽力した人物です。薩埵は、1856年に京都で「町人の哲学」として知られる石門心学の家に生まれました。幼くして両親を亡くしましたが、6才にして『大学』（儒学の経書）を暗誦するなど神童のほまれ高く、15歳で京都仏学校に入学、フランス人教師レオン・デュリーに仏語を学び始めます。1875年、デュリーが東京開成学校に転じたため、彼も恩師に従って上京しました。しかし、家が貧しかったため正式に学校に入学することはできず、フランス語の知識をたよりに、独学で法律を学び、その努力が仏法学者の桜井能監に認められ、1878年に内務省雇となりました。

翌年、幸運な転機が訪れます。法典編纂のため日本政府に招かれていたボアソナード博士と出会い、以後6年間にわたって直接指導を受けることになったのです。博士は彼を非常に愛し、博士の推薦で、司法省雇、民法編纂局勤務となりました。

1880年、東京法学社を金丸鉄・伊藤修らと設立。翌年、東京法学校の独立後、薩埵は若冠25歳で東京法学校主幹という学校の最高責任者となり、学校の発展に情熱を傾けました。

彼を顕彰するため、本学は2007年に竣工した外濠校舎6階の大ホールを「薩埵ホール」と名付けました。



ボアソナード (Gustave Emile Boissonade de Fontarabie.1825-1910)

東京法学社は薩埵らボアソナード博士の薫陶を受けた若者たちによって設立されました。その意味でボアソナード博士は本学の父とも呼べる存在です。

ボアソナードは、1825年、フランス・ヴァンセンヌ市に生まれました。パリ大学を卒業し、博士号を取得した後、グルノーブル大、パリ大の教授を歴任、1873年、政府の法律顧問として日本に招かれ、太政官、司法省、外務省などの顧問として、20年間にわたり法典編纂や、司法省法学校の教授、政府の外交政策への助言などに尽力しました。

1883年9月、愛弟子の薩埵らが設立した東京法学校の教頭に就任した博士は、以後最終帰国まで約10年間にわたり、無報酬で門弟の教育に情熱を注ぎ、本学の基礎固めに精魂を傾けました。博士の影響下で設立された学校は他にもありますが、本学への肩入れは特別なものだったようです。

博士は日本に永住する決意をしておりましたが、1892年に心血を注いだ民法典が流産の憂き目に会うのを見て、1895年に失意の内に帰国。晩年は南フランスのアンチーブで過ごし、1910年に亡くなりました。

2000年4月に竣工した「ボアソナード・タワー」は、学内で広く名称公募した結果、本学草創期に大きな功績を残されたボアソナード博士にちなんで命名されました。

その後、法令の改正にともなって1903年に専門学校令による法政大学、そして1920(大正9)年には大学令による法政大学となり、現在の市ヶ谷校地に移りました。この時から日本有数の総合大学として歩みはじめ、法学部に加えて設置された予科および経済学部、そして文学部(正確には法文学部哲学科・文学科)には、夏目漱石門下の野上豊一郎や内田百閒、和辻哲郎らをはじめ、時代をリードするそうそうたる知性が集い、他に類を見ない「自由と進歩」の気風が横溢する大学となりました。

戦後復興期に総長となった大内兵衛は「われらの願い」として、「独立自由な人格の形成」、「学問を通じたヒューマニティの昂揚」、「日本人の社会生活の向上に寄与する人材の育成」3箇条を本学の使命に掲げました。これもまた今日の学風の基礎として底流しています。

1964年には理工系学部のために小金井キャンパスを、1984年には多摩キャンパスをオープン。時代と社会のニーズに合わせ、将来を展望して、現在、3キャンパスに15学部、14大学院研究科・3専門職大学院を展開しています。

また、社会人の要望に応え、戦後も間もない1947年には通信教育部を開設。日本で最初の試みであったこれも、本学らしい、時代の要請に応える事業でした。

歴史と伝統に甘えることなく、つねに社会の変化を見ずえて自由な発想で挑戦を続ける「自由と進歩」の精神は、今日も変わることなく全学に息づいています。あなた自身が「その先の自分を創る。」とき——さあ、ここからスタートです。

もっと詳しく知りたい人は、市ヶ谷基礎科目「法政学への招待」(市ヶ谷キャンパス文系学部生対象、春学期)または、エクステンションカレッジ「法政学事始め」(10月5日、全在生無料)を受講しましょう。



梅謙次郎 (1860-1910)

1889年、東京法学校は東京仏学校と合併、和仏法律学校となり、さらに、1903年には専門学校令により和仏法律学校法政大学へと発展していきました。この時期に活躍したのが、日本の「民法の父」梅謙次郎博士です。梅博士は本学の「中興の祖」とも称されます。

梅謙次郎は1860年、松江藩の侍医の次男として生まれました。幼少より優秀の誉れ高かった梅博士ですが、藩制の解体により一家は零落。上京後は大道の夜店で足袋手拭などを売りながらカンテラの灯りで書見に励むなどの刻苦精勤し、東京外国語学校仏語科を最優等で、司法省法学校は首席で卒業しました。卒業後は東京大学法学部教員等を歴任。フランス留学では、リヨン大学から「和解論」によって法学博士の学位を授与され、これによりリヨンを賞碑が贈られ、同論文が市費出版されるという名誉も受けました。その後、富井政章(のちに本学校長)らからの懇請で、梅博士は和仏法律学校に来ることになりました。以後、和仏法律学校校長、そして和仏法律学校法政大学初代総理に就任、1910年に51歳で急逝するまでの20年余、本学のために働き続け、その間給与は一切受け取らなかったといひます。

なお、梅博士が創設した清国人留学生のための「法政速成科」は胡漢民・汪兆銘・宋教仁等の中国近代史に名を残す人々を多く輩出したことで知られています。



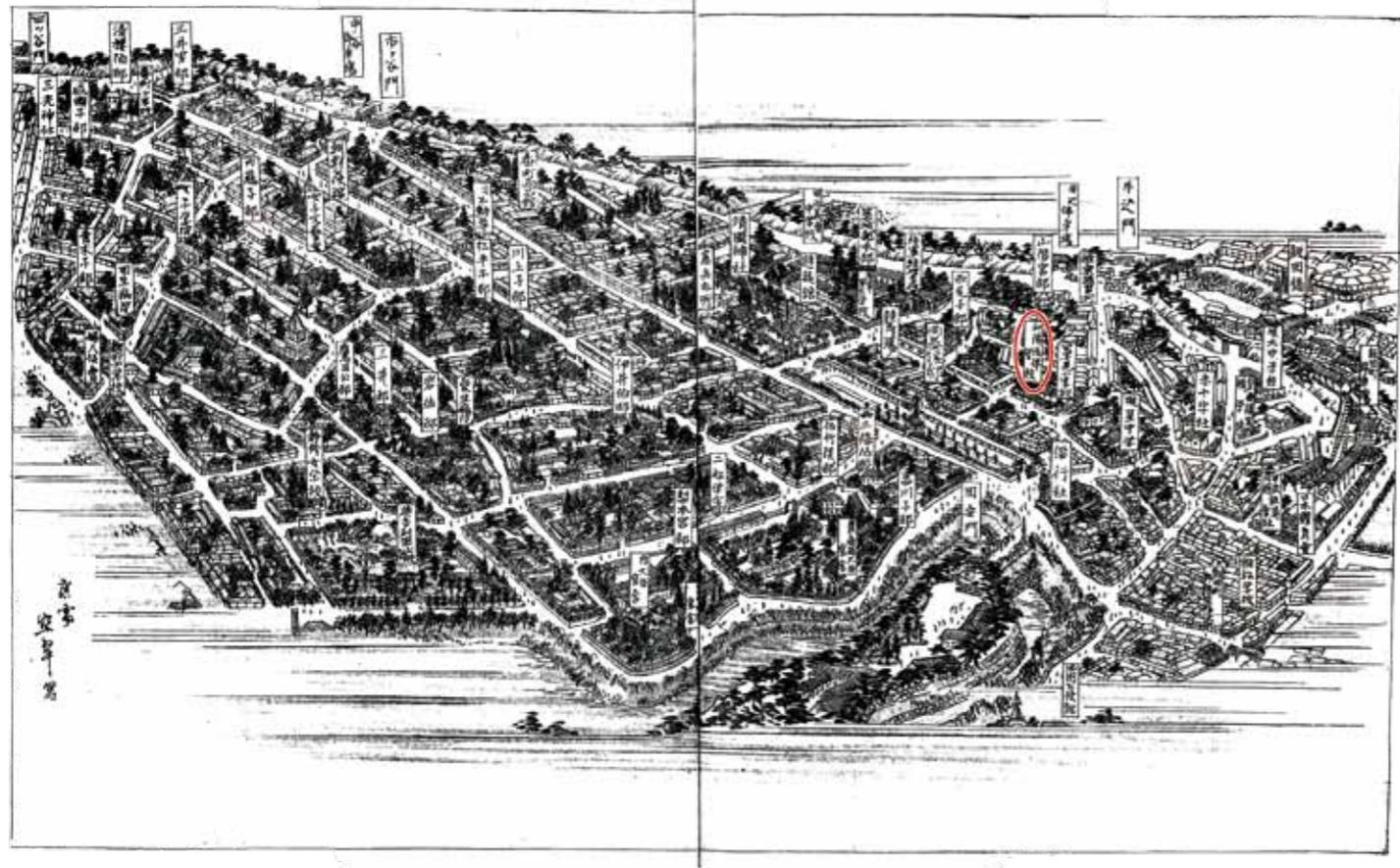
大内兵衛 (1888-1980)

大内兵衛は著名な経済学者・財政学者で、1950年から1959年まで本学の総長を務め、戦後における本学発展の基礎を築きました。

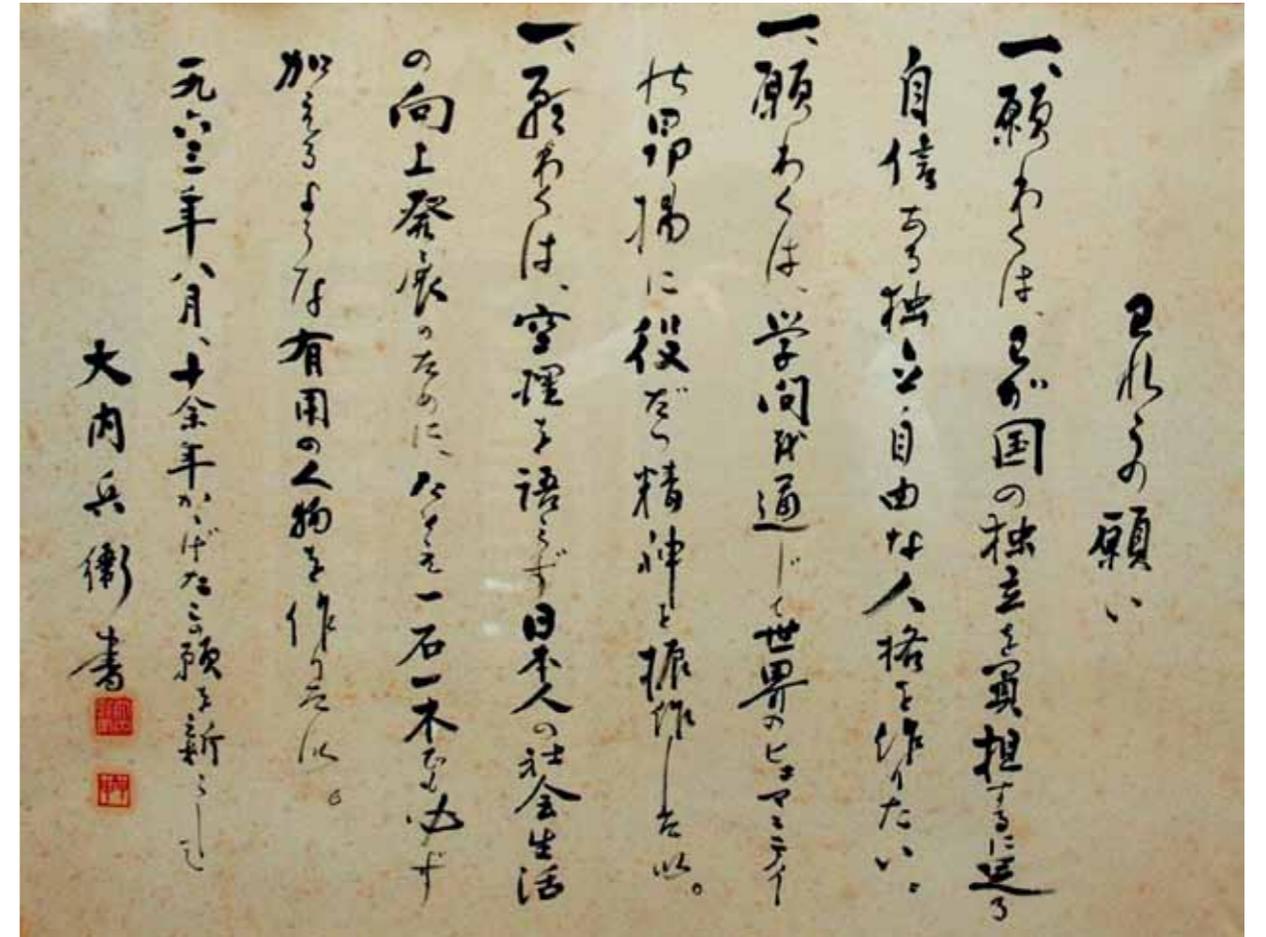
大内は1888年、兵庫県淡路島で生まれました。第五高等学校、東京帝国大学法科大学経済学科卒業後、大蔵省に勤務。1919年、新設された東京帝国大学経済学部の助教授となりました。しかし、1920年の森戸事件、1938年の人民戦線事件といった戦前期日本の言論弾圧事件のため、退官と復職の繰り返しを余儀なくされます。

1949年に東大を定年退官した直後の1950年、友人であった錦織理一郎・久留間鮫造(共に経済学部教授)や中野勝義(本学OB、全日空の創立者の一人)などの多くの本学関係者の説得により、本学の総長に就任、以後約9年間にわたって、戦争により多大な被害を受けた本学の立て直しに尽力しました。

現在も市ヶ谷キャンパスの中心に位置する55・58年館は大内総長時代に建設されたもので、今日も55年館ホールに掲げられている「学而不思則罔、思而不学則殆(学んで思はずればすなはち罔く、思ひて学ばざればすなはち殆し)」という『論語』の一節を記した書は、漢詩・漢文に親しみ、能書家であった大内総長の筆によるものです。



風俗画報臨時増刊『新撰東京名所図会』第19編（1899年）掲載「麹町区総図其二」（石塚空翠画）
 右上「牛込停車場」（今の飯田橋駅）の少し下に「和仏法律学校」が見える。



「われらの願い」 大内兵衛

- 一、願わくは、わが国の独立を負担するに足る自信ある独立自由な人格を作りたい。
- 一、願わくは、学問を通じて世界のヒューマンティの昂揚に役だつ精神を振作したい。
- 一、願わくは、空理を語らず日本人の社会生活の向上発展のために、たとえ一石一木でも必ず加えるような有用の人物を作りたい。

校歌を知ろう!

入学式で校歌を聞いたでしょうか? 法政大学の現在の校歌は、それまで歌われていた校歌(現、行進曲)に代わり学生の間で新たに作成の気運が高まって1930(昭和5)年に制定されました。そのための募金活動、作詞・作曲者の選定・仲介も学生が担った、「学生による校歌」であるのも本学らしいところです。

- 1 若きわれらが命のかぎり
ここに捧げて(ああ)愛する母校
見はるかす窓(の)富士が峯の雪
螢集めむ 門の外濠
よき師よき友 つどひ結べり
法政 おお わが母校
法政 おお わが母校

- 2 若きわれらが命のかぎり
ここに捧げて(ああ)愛する母校
われひと共にみとめたらすや
進取の氣象 質実の風
青年日本の代表者
法政 おお わが母校
法政 おお わが母校

まず、これからずっと愛する母校のために尽くそうという志を謳います。

1番の「見はるかす窓の富士が峯の雪、螢集めむ門の外濠」は、その名も富士見坂から、はるか遠くに雪を頂く富士山を望み、清らかな水をたたえ螢が飛ぶ外濠に隣接する母校には、「螢雪」が揃っていて勉学に励むのに最適だという意味です。螢の光や窓の雪の光で勉学に励んだ中国古代、六朝時代の学者車胤・孫康の「螢雪の功」の故事をふまえています。昔は外濠も螢が住めるほどにきれいだったのでしょうか。

2番の「われひとともに認めたらすや、進取の氣象、質実の風」は、我々学生たちもまた他の人々も皆が認める(「~たらすや」は反語ですね)、法政大学の時代を先取りする自由な精神、飾らない学風を称えます。



外濠の向こうに見える戦前の市ヶ谷キャンパス

法政大学のスクールカラー

オレンジとブルーです。古い応援歌の歌詞によると、2つの色は「暁の太陽」と「青空」を表しています。

さまざまな大学グッズ、大学の刊行物、体育会のユニフォーム等、さまざまなおところに使われています。

覚えておくとよいですね!



法政大学ホームページ
<http://www.hosei.ac.jp>

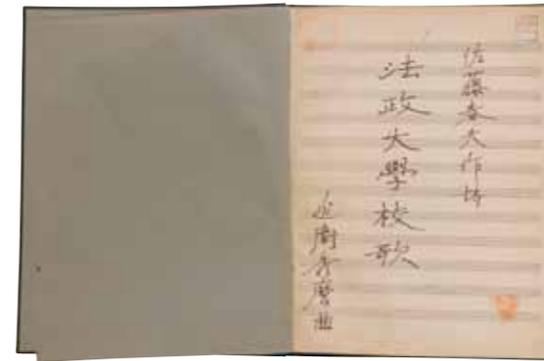
作詞者佐藤春夫は、抒情的な作風で知られる詩人で、小説や随筆等にも多才さを発揮した、大正・昭和初期を代表する作家の一人。当時、本学で文章の講義を担当していました。

近衛秀麿は、後に首相を務める近衛文麿の弟で、指揮者・作曲家として、草創期の日本のオーケストラ運動を担った人物です。

本学ホームページには音源も掲載しています。六大学の校歌の中でも音域が広く、美しい旋律をもつこの校歌。その意味をかみしめつつ聞いてみましょう。



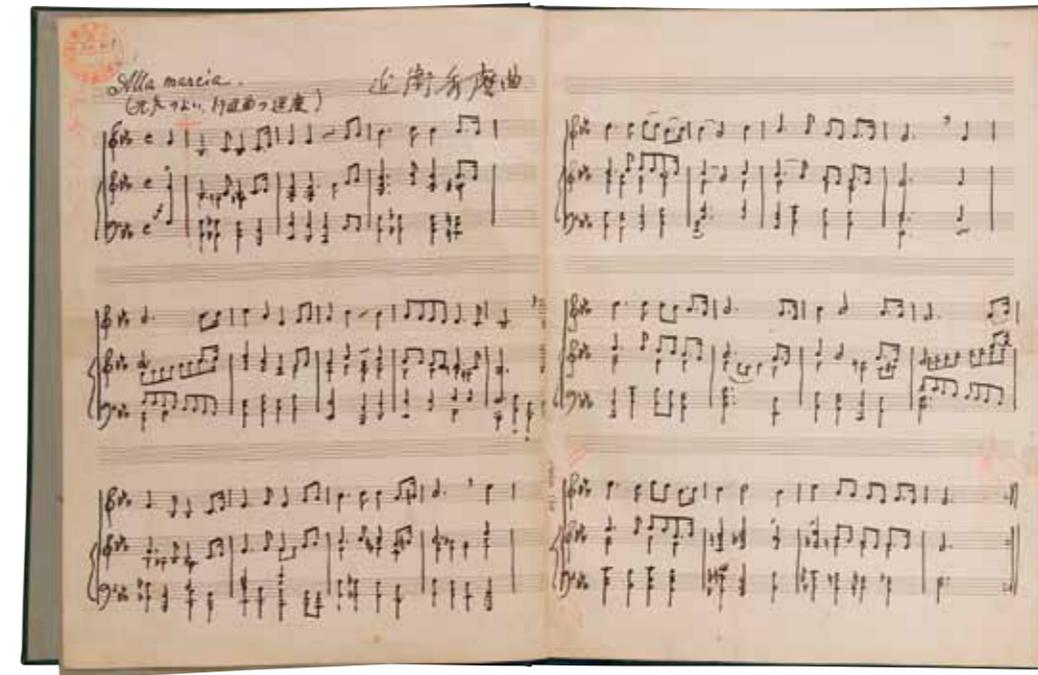
入学式での校歌斉唱



佐藤春夫



近衛秀麿



近衛秀麿直筆法政大学校歌楽譜

霞五郎「校歌の出来るまで」(『法政大学物語百年史』法友新聞社 1981年)

法政大学図書館編
『法政大学所蔵文庫案内』
(法政大学図書館 1991年)

法政大学のお宝コレクション

法政大学図書館

「進取の気象」あふれる法政大学にも、長い歴史の中で法政大学にゆかりのある先人たちから寄贈を受けるなどした知の遺産の数々が保存されています。とくに市ヶ谷図書館には、誰しもが驚く貴重な蔵書があります。開架に並ぶ図書だけを見て悔るなかれ!ここでは、その一端をご紹介します。

◀④子規旧蔵中国明版『古今小説』挿絵

馮夢竜編の口語(白話)による短編小説集。上田秋成『雨月物語』をはじめ多くの日本の作品に影響を与えたことが知られています。世界に3点しか現存しないとされる貴重な典籍です。

⑤子規旧蔵『父の恩』

二代目市川團十郎が父の初代團十郎追善のために編んだ俳書。錦絵(多色刷り浮世絵)以前の色刷りの技術をうかがわせる貴重な書物です。

正岡子規文庫

俳句・短歌と、日本の詩歌を革新したことで名高い正岡子規(1867-1902)が所蔵していた書籍が2000冊余、貴重書として保管されています。子規の没後、その蔵書を守り伝えた門人寒川鼠骨によって1949年に法政大学に寄贈されました。これには、子規との交友が知られる夏目漱石の門人で、この時、法政大学の総長であった能楽研究家で英文学者の野上豊一郎、図書館長であった田村輝雄らの尽力があったといえます。自筆ノート類の他、子規が力を入れていた俳諧の書籍を中心に、中国で刊行されたものも含めて数多くの漢詩文の書籍、写生を唱えた子規らしく関心が高かった絵画関係の本、また、明治の知識人らしい英文の書籍など、多種多様な書籍が多数含まれています。熱心に読み込んだらしく、それらにはときに子規の書き込みが見られることも貴重です。

和辻哲郎文庫

「和辻倫理学」として知られる独自の思想体系を築いた和辻哲郎(1889-1960)の旧蔵書です。和辻と聞いてピンとこない人も、『古寺巡礼』(1919)の著者といったら分かるでしょうか。かつて法政大学文学部哲学科で教鞭をとったこともある和辻の没後、その夫人照の意志によって、友人で法政大学哲学科教授谷川徹三(後に総長、詩人・谷川俊太郎の父)を介して、一括して寄贈されました。

和・洋併せて5000冊におよぶその蔵書には、随所に疑問や論評などの書き込みが見られ、それらを通して、宗教や古典文学、芸能、風土など多岐にわたる広い視野から日本人の精神史を捉えた和辻の思考、研究の跡が辿れる点は何よりも貴重です。

三木清文庫

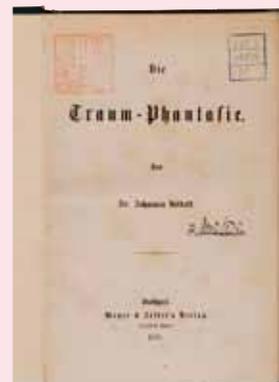
本学文学部哲学科の教授を務め、治安維持法違反の嫌疑を掛けられて獄中で非業の死を遂げた哲学者三木清(1897-1945)の旧蔵書8000余冊です。人生の諸要素を考える手がかりとして今も広く読み継がれる『人生論ノート』で知る人も多いでしょうか。京都で西田幾多郎に、ドイツでハイデッガーに学んだ三木の膨大な蔵書は、その半数近くが洋書で、当時のドイツ哲学文献の宝庫です。三木の没後、遺族に守られていたものを1950年に本学図書館が購入しました。

本学多摩図書館には、三木と同じく西田門下で、三木の跡を継いで本学教授を務めた戸坂潤(1900-45)の旧蔵書約1500冊も収められています。

牧野英二監修『和辻哲郎の書き込みを見よ!和辻倫理学の今日的意義』
(法政大学図書館 2009年)



『カント全集』に挟まれていた和辻自筆メモ



三木清旧蔵書



④



⑤



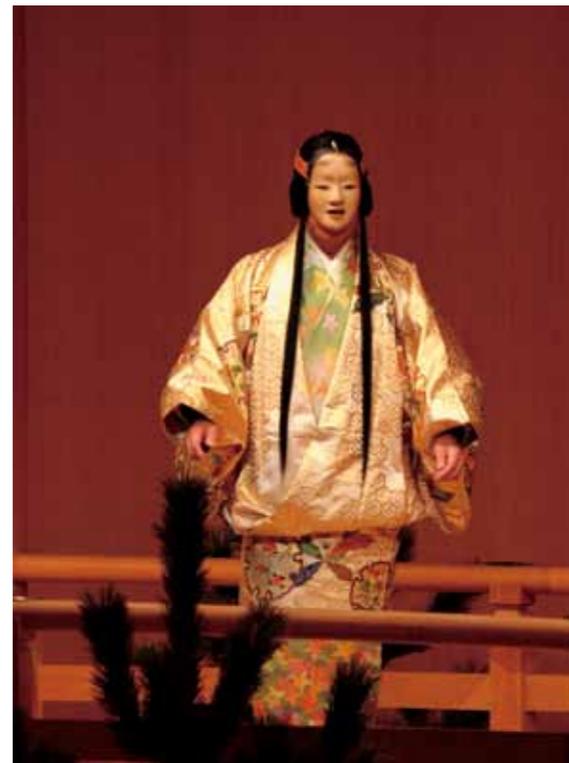
学生時代の子規のノート(自筆)

野上記念法政大学能楽研究所

能楽といえば、日本を代表する伝統芸能。2001年には、日本の伝統芸能としては初めてユネスコの世界無形文化遺産に登録され、いまや日本ばかりではなく、人類が共有すべき「無形遺産の傑作」として注目を集めています。

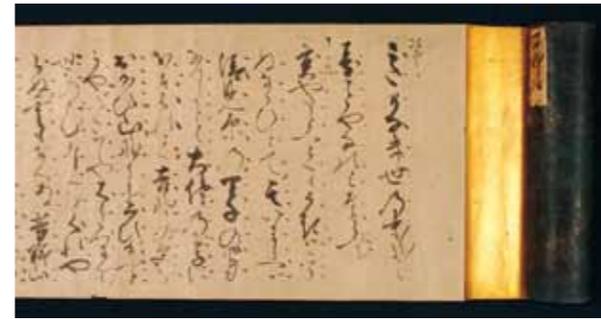
この能楽の研究で世界中に知られているのが、ボアソナードタワー 23階にある野上記念法政大学能楽研究所です。本学の元総長・野上豊一郎博士を記念して1952年に創設されたこの研究所は、能楽を専門とする研究機関として、長い歴史と実績を誇り、世界の能楽研究の一大拠点となっています。

ここには能楽の歴史を伝える数多くの貴重な資料が保管され、いまでもその整理と研究が続けられています。



新作能「草枕」

能楽研究所は能楽界と協力し、今は上演されなくなってしまう古い能の復活や、能の技法を用いたまったく新しい作品の上演などもおこなってきました。写真の「草枕」は、夏目漱石の小説や詩を素材にし、2002年に初演された新作能です。



金春禅鳳筆謡本

能のテキストを「謡本」といいます。能の文章（詞章）は、舞などの演技を伴わない「謡」という形式でも楽しまれていました。研究所には室町時代から現在までの謡本が、数多く所蔵されています。



『信長朱印状』

有名な「天下布武」の印がある織田信長の朱印状。観世彦右衛門という能役者に信長が領地を認める、という内容です。能は時の権力者の後援を受けて大きく発展しましたが、研究所には、そうした能の歴史に関わる資料も数多く所蔵されています。



『二曲三体人形図』

研究所には、能をどう演じるべきか、理論や実際上の注意を記した「伝書」類も数多く集められています。これは、能の大成者世阿弥が能の演技を絵入りで説明した伝書です。世阿弥時代の能の姿を教えてくれる貴重な資料です。



『風姿花伝』

世阿弥の最も代表的な著作で、「花」という言葉をキーワードに、能役者が心得るべき演技の心構えを記した理論書です。役者による演技論としては世界で最も古いものですが、実際の舞台経験に基づいた高度な内容は、今も高く評価されています。



私のキャンパス、ここがおすすめ!



人間環境学部 人間環境学科 4年 船田 瑞沙子

市ヶ谷キャンパスと言えば、やはりボアソナードタワー! 通称“ボアソ” 遠くからも目に入るボアソは市ヶ谷キャンパスのシンボルです! 26階の展望スペースなど上層階から見る夜景は本当に絶景です!!! 東京タワーはもちろんのこと、天気の良い日中は富士山も見えますよ!

4階には知る人ぞ知る屋上庭園もあるんです。レポートに追われたり、勉強で疲れたりした時は東京の夜景や緑を見て息抜きをしてください。みなさんの大学生活が素敵なものになりますようお願いしています♡

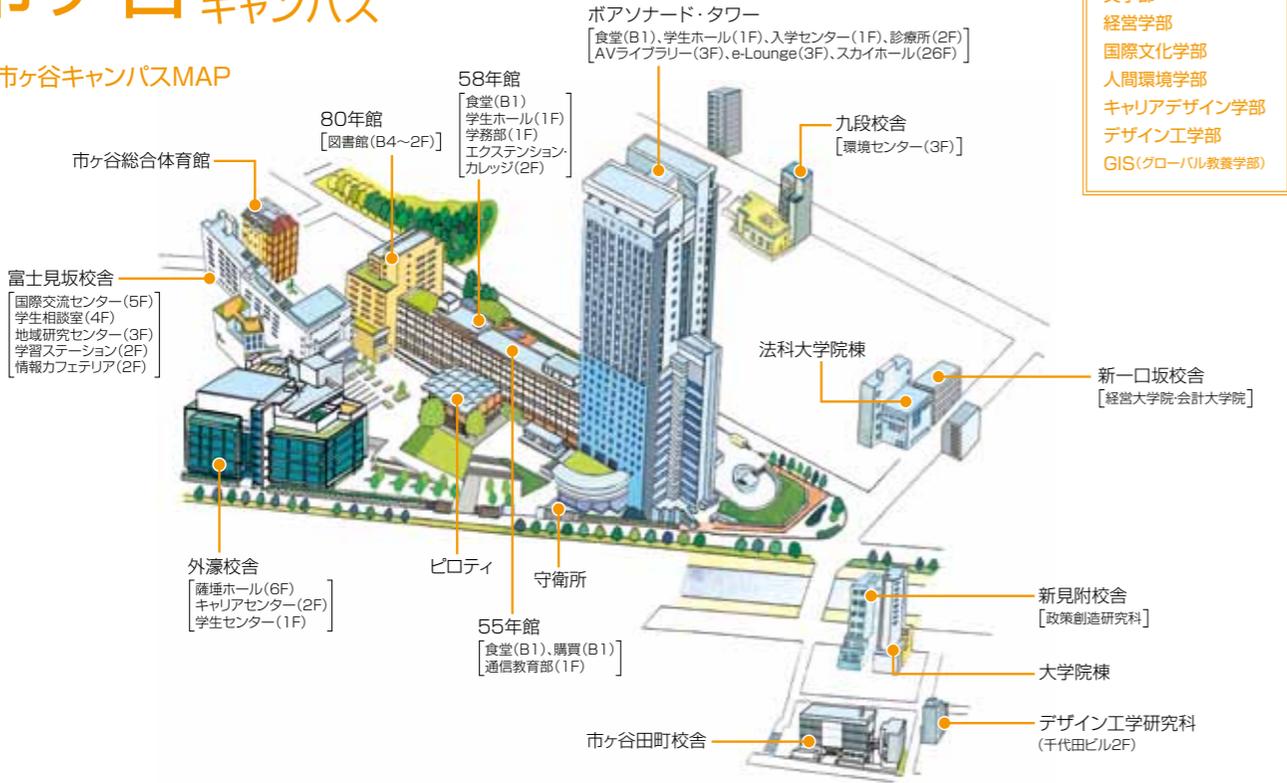


文学部 英文学科 3年 小林 優紀

市ヶ谷キャンパスは学生へのサポートが非常に充実しています。キャリアセンター、国際交流センター、学習ステーションなど多くの有益な情報を提供してくれるところがあります。特におすすめなのはボランティアセンターです。ここでは地域清掃から国際ボランティアまで、他分野にわたるものを紹介してくれます。たくさんのことを経験し、新たな自分を見つけてみませんか!?

市ヶ谷キャンパス

●市ヶ谷キャンパスMAP





私のキャンパス、ここがおすすめ!



社会学部 社会学科 4年 須永 小百合

広大な土地と豊かな自然が多摩キャンパスの良いところです。休講などで時間が空いてしまった時、少し離れた他学部の方まで遊びに行くだけでも、学部ごとに違う雰囲気が味わえて楽しいです。そこで新しい友達が出来るとなるといいですね♡

また、各事務課で学生証を出すとボール等の遊具を借りることが出来ます。友達とキャンパス内で思いっきり遊べるのは、多摩キャンパスだからこそだと思います。自然豊かな景色に囲まれながら、たくさんの友達とたくさんの思い出を作ってください!



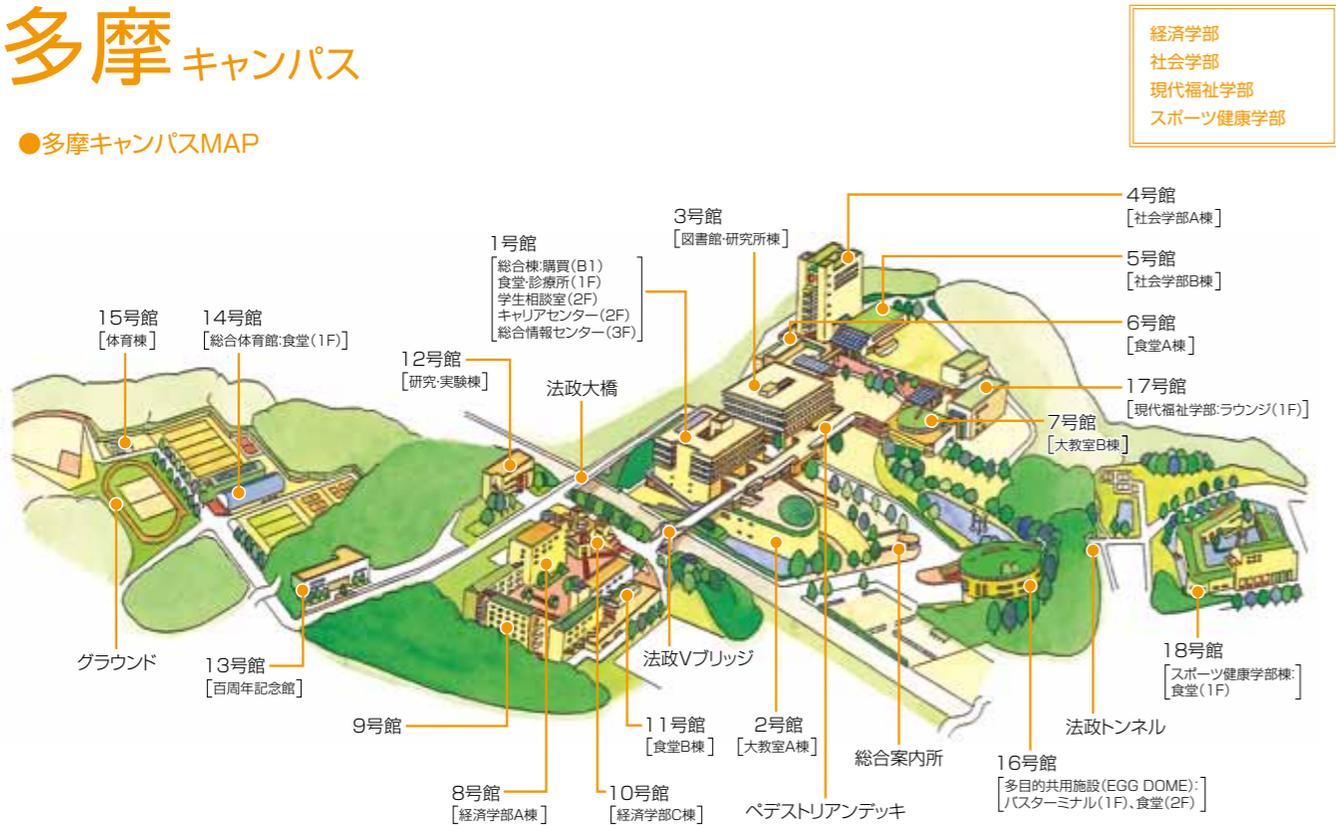
経済学部 国際経済学科 3年 大西 峻二

大学生活は自由が多く、興味があることを好きなだけできる4年間になると思います。勉強でもサークルでも何でも、自分が「やってみたい!」と思ったことを全力で取り組んでみてください。

そんな大学生活でお世話になっているのが図書館です。本の数も多く、勉強のことで利用するのはもちろんのこと、自分の興味が赴くままに図書館の中を歩き回ったりしています。特に多摩キャンパスの図書館は窓から見える景色がとても綺麗なためおすすめです!

多摩キャンパス

●多摩キャンパスMAP





私のキャンパス、ここがおすすめ!

情報科学部 コンピュータ科学科 3年 遠越 光輝



私が小金井キャンパスでおすすめする場所は2012年度に新しく出来た鍵盤広場です。勉強に行き詰ったときに散歩すると、良い気分転換になりますよ。鍵盤広場にはニュートンの林檎の木などがあるので、是非探してみてください。

また、西館にはGBC (Glass Box Office Hour Center) という学生生活や課題を、教授や先輩に相談できる場所があります。情報科学部生は、GBCを活用してみましょう!

他にも図書館、スタディールームといった学生が利用できる施設がたくさんあるので、是非利用してみてください。この青春を駆け抜ける!!



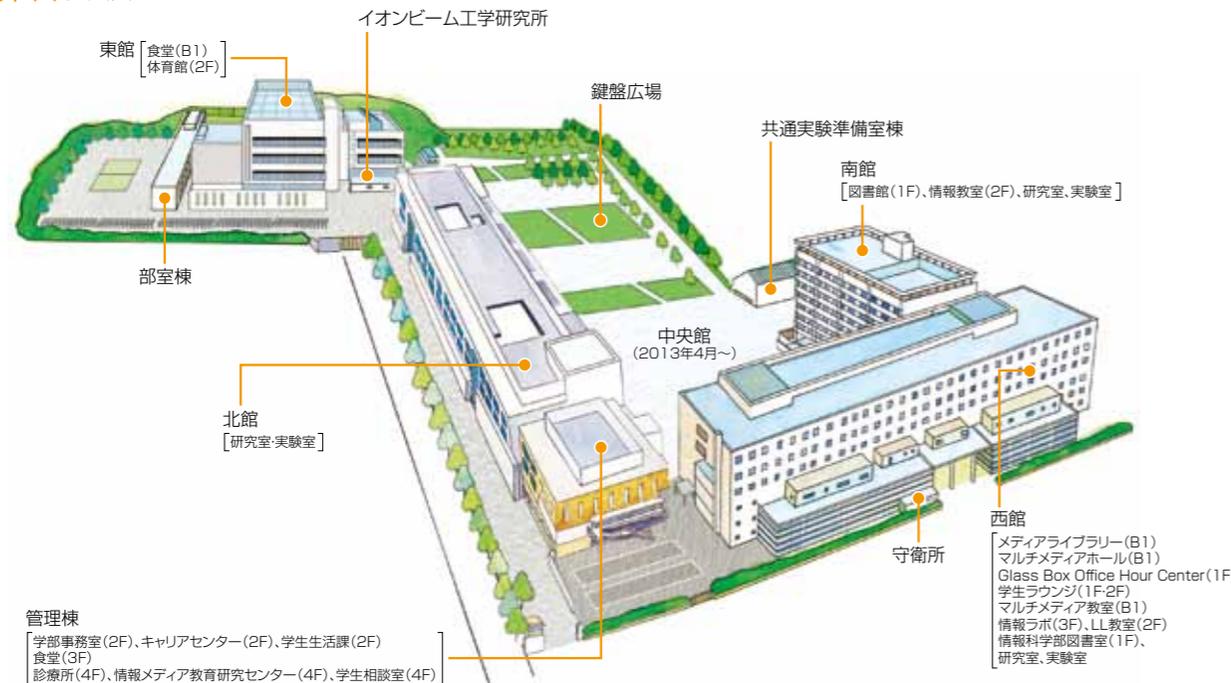
理工学部 電気電子工学科 3年 若林 真帆

小金井キャンパスは静かな住宅街にあり、勉強などの学生生活を送るのにはとても快適です。また2つの学食があると同時に、キャンパスの周りにはごはん処もたくさんあり、楽しめます。そして小金井キャンパスの見所は、新しくできた鍵盤広場です。ニュートンのリンゴやメンデルの葡萄、孔子にちなんで別名「学問の木」と言われている楷の木も見ることができます。夜にはライトアップもされて、とても綺麗ですよ。

他にも図書館やメディアライブラリーなど、学生生活サポートしてくれる施設もたくさんあります。毎日とても楽しいです!

小金井キャンパス

●小金井キャンパスMAP



理工学部
生命科学部
情報科学部

大学での「学び」とは

時間割をつくる

大学では同じ時間に別々の教室で複数の科目の授業が行われています。では自分ほどの授業に出れば良いのでしょうか？ 一人ひとりが「自分の時間割をつくる」、そこから大学での学びがスタートします。高校までとは違って、自分の学習計画を自分で組み立てるのです。時間割をつくることは皆さんの学びの方向性と卒業後の進路に直接かかわってくる大事な作業です。

(1) 授業の形態

ところで大学ではどんな授業をしているのでしょうか？ 大学での授業には、①講義、②実験・実習、③演習（ゼミ）と大きく分けて3種類の形態があります。

- 講義科目では、先生の講義を聞いてノートを取ることが授業参加の第一歩ですが、実は講義のスタイルは先生によって違いますし、板書のスタイルも十人十色。ノートの取り方が学びの基本技術です。総まとめは期末試験やレポートとなる授業が多いです。
- 実験・実習科目ではグループでのテーマに沿った実験と結果の分析、コンピュータや作品制作のワークショップ、社会調査のフィールドワークなどがあります。課題に挑戦して、講義だけでは知りえないことを身につけます。
- 演習科目（ゼミとも言います）では、研究室に属して指導教授の先生に助言をうけながら、一学期全部あるいはもっと長い時間をかけて、問題意識を深めじっくりと研究します。一般には演習の成果がいわゆるゼミ論ですが、それが卒業研究、卒業論文（卒論）となる学部もあります。演習とは大学での学びの到達点ともいえるでしょう。

学習サポートの窓口 「学習ステーション」

- 市ヶ谷キャンパスでは、学生の学習活動のサポートを行うことを目的に、2011年4月に「学習ステーション」が開設されました。
- 4月には新入生のキャンパスライフをスタートするための様々な質問を受け付ける「新入生サポート」を行っています。また、学生スタッフが自分たちの強みや得意分野を活かして作成したプログラムを中心に、他の学生の「学び」をサポートしています。

○場所：市ヶ谷キャンパス
富士見坂校舎2階

(2) シラバス

それぞれの科目の内容を詳しく知るために、必ず学部が発行するシラバスに目を通してください。その科目の目的、学習の到達目標、授業計画と単元、成績評価の方針などが説明されています。シラバスには学部より配布される印刷物と授業支援システム上のWebシラバスがありますが、どちらも基本的には同じ情報です。適宜使い分けてください。

シラバスを読みこなすコツを身につけましょう。それには学部が配布する「履修の手引き」にもしっかりと目を通してください。皆さんが調べている科目が、学部カリキュラムのなかでどのような役割を担っているかが「コース」や「科目群」という形でまとめられています。

シラバスは学期中にも十分に活用してください。受講する科目の授業計画に親しんでおくと、予習・復習が効率的になります。

(3) 履修登録

自分にとって最良の履修計画は一人ひとり異なります。よく考えてどの科目を履修するかを決めてください。先生方や先輩、事務の窓口へアドバイスをもらうのも、大いに参考になるでしょう。でも最後は自分で判断して決めてください。皆さんの履修計画は皆さん自身のものでありますから。

学部学科によっては、多くの必修科目が指定されているところもあれば、あらかじめ受講するクラスが指定される科目を開講しているところもあります。履修の手引きとシラバスを良く読んで、学部の教育方針や履修指針をきちんと理解することが大切です。

履修する科目を決めたら登録します。履修登録には手続きの期間がありますので、学部ガイダンスの内容や履修の手引きを十分に理解して、手続き漏れのないように十分に注意しましょう。履修登録をすませたら確認することもお忘れなく！

- これは筆者自身の学生時代のちょっとした工夫なのですが、シラバスを小さくコピーして授業ノートの表紙ページに貼っておくと、毎回の授業の進捗と授業計画全体との関係がいつも良くわかるのでおおいに役に立ちました。

ちょっと待って！

- ✕「必修科目じゃないから、この科目は履修しないでいいや」
- ✕「選択科目はどの科目でも好きな順番に履修していいよね」
- ✕「今学期いちばん簡単そうな科目はどれかな？」
- ✕「アルバイトやサークルの時間を確保したいので、授業はできるだけ同じ曜日に集中して取ればいいんだよ」

注意事項

おやおや、こういう考え方でどこがおかしくないですか？皆さんの学部の履修モデルはどうなっているのか確認したうえで、登録しましょう。

履修や成績などにかかわる各種システムを利用しよう!

大学には履修や成績、Webシラバスなど、授業や履修にかかわる様々なシステムがあります。用途により、利用するシステムが異なりますので、注意が必要です。

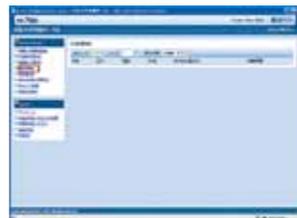
(1) 情報システム ※統合認証アカウントによるログインが必要となります。

<https://www.hosei.ac.jp/as/student/>

Web履修登録システム、お知らせ配信サービスなど、学部事務を中心として学生生活をサポートします。

Web版の主な機能

- ①履修申請——履修登録ができます。
※履修とは、授業を受講することを指し、履修登録は全員が必ず行わなければなりません。
- ②授業・時間割照会——履修登録手続き完了通知後、利用できます。
- ③休講・補講状況照会——履修登録手続き完了通知後、利用できます。
- ④抽選授業履修申請——抽選対象科目の申請、及び結果の確認ができます。
- ⑤単位修得状況照会——自分が修得した単位を確認することができます。
- ⑥キャリア就職——就職活動の補助ツールとして、企業検索などができます。
- ⑦奨学金申請——奨学金の申請ができます。



携帯版の主な機能

- ①時間割——履修登録手続き完了通知後、利用できます。
- ②休講情報——全学の休講情報を確認することができます。
- ③お知らせ配信——全体宛、個人宛に配信されたお知らせを確認可能です。
※掲示板の補助サービスとして、個々のメールアドレスに情報が配信される。
- ④メール配信設定——お知らせと休講情報のメール配信設定ができます。

📖 統合認証アカウント

- ・詳しくは総合情報センター発行の利用ガイドもしくはnet2010ユーザー支援サイト (<http://net2010.hosei.ac.jp>) を参照してください。

📖 こんなところが便利!

- ・お知らせ配信は、携帯電話に転送する設定が可能ですので、外出先でもお知らせを確認することができます。

(2) Webシラバス

<https://syllabus.hosei.ac.jp/>

各授業の概要をWeb上で公開しています。授業の到達目標、テーマ、授業計画、テキスト・参考書、成績評価基準など、授業を選ぶ際の参考となる情報が閲覧できます。



(3) 授業支援システム

<https://hcms.hosei.ac.jp/> ※統合認証アカウントによるログインが必要となります。

授業を補助するツールとして授業支援システムを導入しています。これは、インターネットを使って教材の配布、レポートや小テストの実施などを行うシステムです。

なお、授業支援システムにも「授業自己登録」という機能がありますが、これは授業支援システムでの利用登録であって、正式な授業の履修登録ではありません。間違えないように注意してください。

このシステムは、担当教員により利用方法が異なります。

主な機能

- ①教材のダウンロード
- ②レポート提出
- ③掲示板

※利用にあたっては、授業支援システムWebガイドを参照してください。

<http://msguide.hosei.ac.jp/index.php?page=hcms-student>



📖 こんなところが便利!

- ・外出先など冊子シラバスが手元にない時でも授業の概要を知ることができます。
- ・条件による科目の検索が可能です。

📖 こんなところが便利!

- ・授業によって、教員がアップロードした資料をダウンロードすることができます(このシステムを利用するかどうか、どの機能をどのように利用するかは担当教員により異なります)。

ノートの取り方

前節「時間割をつくる」で説明しましたが、講義授業ではきちんとしたノートを取ることが学びの基本技術です。良いノートは理解を助け、皆さんの学びの質を高めてくれるでしょう。ではどのようなことに注意すれば良いノートが取れるようになるのでしょうか？

(1) 大学の授業は何が違うのか

まず、大学の授業が高校の授業とどこが違うのかを考えてみましょう。よく言われることですが、高校までの授業は教科書に沿って進められ、毎回の授業内容は細かく決まっています。ノートは板書内容を書き写すことが基本です。

これに対して大学での授業は、先生方の個性豊かなスタイルで進められます。そして一般には板書をするよりも皆さんに語りかける比重の方がずっと大きいのです。授業とはもはや知識を伝授するだけの場ではなく、むしろ皆さんの問題意識を掘り起こし議論を仕掛けるような、知的な訓練の場になります。そして何よりも大学で扱う授業のレベルは高校の授業のレベルより高いのですから、皆さんが知らない学説や耳慣れない学術用語がポンポン飛び出してくるでしょう。

(2) いくつかのヒント

ではどうすればよいのか？ 実は普段の生活の中にヒントがあるのです。わたしたちは大事な話を聞きもらすまいとしてメモを取ることがありますね。その時には自然と話の要点だけを書き留める努力をするのではないのでしょうか。耳では一生けんめいに相手の話を聞いて理解に努めながら、同時に手は大事なポイントを書き留める作業をやっていきます。そして理解できなかったことや、本当に大事なことはあとで確認しますね。

良いノートを取るコツも実はまったく同じなのです。

したがって良いノートというのは

- ・講義内容の要点がまとめられているノート
- ・要チェック項目がきちんと書き留められているノート
- ・あとで復習するときに講義内容が思い出せるノート

ということになります。

以上の3点を押さえてさえいれば、ノートの取り方は各自でやりやすい方法を工夫すれば良いのです。もっと大事なことは、その日のうちにノートを見直して講義内容を自分なりに整理することです。でもそれだけでは「何をどこから始めてよいかわからない」という人のために、一例として次のページの図のような方式をご紹介します。

- ・まず紙面を3つに分けます。ノートの左端と下端からそれぞれ5～6センチのところに線を描きます。線のかわりに紙面を軽く折っても良いでしょう。
- ・授業中にノートを取る時には、まず①の部分に書き込むようにします。あとで整理するために、最初は②③の部分は使わないでおきます。
- ・授業が終わったらすぐにまとめます。①の内容をあらわすキーワードや短い字句を考えて②の部分に書き込みます。同時に疑問点や要チェック事項を書き出しておくといいでしょう。
- ・最後に講義内容を一行程度の短い文にまとめて③に書き出します。上手に整理されたノートでよく復習すれば、レポートや期末試験対策も効率的ですね。

いかがでしょうか？ 板書を丸写しするスタイルを卒業して、要点をまとめ疑問点を洗い出すノートの取り方を、皆さんも工夫してみましょう。



- ノート紙面を3つに分けます
- ▼
- 授業中は①の部分だけを使ってノートを取ります
- ▼
- 授業終了後は、できるだけすぐにキーワードを②に書き出してまとめます
- ▼
- 次の授業までに必ず講義内容の要約を③に書き出しておきましょう
- 聞きとれなかった用語や要チェック項目を調べるなど①をもう一度見直します



【コラム】

受講のマナー

ヨーロッパの劇場でオペラを見ていたときのことです。序曲の演奏が始まった劇場に、何人かの旅行客が入って来ました。美しい劇場に感激したのか、何やらおしゃべりをしながら自分たちの席を探しています。よく聞くと——なんと日本語ではありませんか。同じ日本人として思わず赤面してしまいました。

皆さんはこんな場面に出会ったらどう感じるでしょうか。

映画館や劇場の中で、上演中に歩き回ったり、おしゃべりをしたりするのはとても迷惑ですよね。ところが不思議なことに、学校での授業となると、こうしたことを平気でする人がいます。

大学が毎年行なっている授業改善アンケートでも、多くの学生から「授業中に周囲のおしゃべりがうるさくて勉強にならない」、「平気で遅刻や早退をする人がいる」といった不満の声が上がっています。

教室の中では学びたいという学生の権利が何よりも優先されます。他の学生の権利を侵害しないよう、大学人としてのマナーを守りましょう。

受講マナーのチェック・ポイント

- 授業中の私語は他の学生の学ぶ権利を侵害します。絶対にやめましょう。
- 遅刻や中途退出も他の学生の迷惑になります。
- 携帯電話の呼び出し音や振動音が鳴らないよう、授業前に電源は切りましょう。
- 授業中の飲食もマナー違反です。

大学生生活で得たものは、色々な経験！
そして友達！！



ブラインドタッチを習得しよう!

文系理系学部問わず、大学では、パソコンを活用した授業も多くあると思います。パソコンに慣れるには、ブラインドタッチが必須です。ぜひ、皆さんも、正しいブラインドタッチができるように練習してください。ブラインドタッチのソフトは、フリー、市販を問わずたくさん出ていますが、例えば昔から定番のソフトとして、「美佳タイプ」と言われるフリーソフトがあります。機能は、シンプルで使いやすいのが特徴で、インストールする必要なく、USBメモリ上で実行することも可能です。ぜひ、ダウンロードして練習してみてください。

以下は、こうしたフリーソフトの使用を想定した練習です。

ブラインドタッチの基本

- 正しい姿勢をとりましょう。
正しい姿勢で、体で覚えていきましょう。
- キーボードを見ないでキーを入力します。
→そのためには、正しい指使いで、キー入力することが重要です。誤った指使い、自己流のクセのある指使いでは、キー入力の速度は伸びません。
- 慣れることが大切です。繰り返し練習しましょう。

指の条件反射作り

- 指を動かしながら、ディスプレイに表示された文字を見ます。
→目一脳一指につながりができます。スポーツと同じで練習を重ねることで、だれでも習得できます（これをバイオフィードバック効果と言います）。

日本文入力は、ローマ字入力が簡単!

- ローマ字入力は、カナ入力に比べて使用するキーが少なくてすみます。

キーの基本ポジション

- 左の人差し指はF、右の人差し指はJに配置します。
→一般にキーボードのFとJの文字には、印があるので見なくてもわかります。はじめのうち、手の移動中はキーボードを見ても構いません。キーボードを押すときは必ずディスプレイを見ましょう。ディスプレイを見ていないと、条件反射作りになりません。

ローマ字入力でわかりづらい文字の一例

ぢ (DI)
じ (JI, ZI)
を (WO)
ひゃ (HYA, HILYA)
ぷつつん (PUTTUNN, PULTUTUNN)
チェック (CHEKKU, CHELTUKU, TYEKKU)
つづく (TUDUKU, TSUDUKU)
など

まずは、ローマ字入力で、1分間に60文字ぐらいを目標にがんばってください。

美佳タイプ

<http://www.asahi-net.or.jp/~BG8j-IMMR/>

授業の空き時間は、情報カフェテリアでネットサーフィン!



演習（ゼミ）

演習とは、知の消費者から生産者になるための転換学習の場です。プレゼンテーションやディスカッションを通じて、新たな知を生み出す方法を学んでいきます。

(1) 研究テーマを見つけよう

大学とは、知の生産者を育てる場です。では、どうすれば新たな「知」を生み出すことができるのでしょうか。

知の生産者を代表するのが科学者と呼ばれる人々ですが、この“科学者とはどのような人間か”について、宇宙物理学者である池内了博士はこう書かれています。

「科学者は、何もかもわかっている人間なのではなく、現在、何がわかっていて、何がわかっていないかを最もわかっている人間なのです。」（『科学の考え方・学び方』岩波書店、1996年）

すでに明らかになっていることを、一から研究しても意味がありません。未解明のテーマを見つけ、それを解明する方法を考えることが研究の第一歩となります。

(2) 先行研究を調べよう

では、どうすれば未解明のテーマを見つけ、新たな知を生み出すことができるのでしょうか。

ここで一つクイズを出してみましょう。世界一高いピラミッドを作るには、どうすればよいのでしょうか？

これから建築や土木を学ぼうとしている人もいるでしょうが、あまり真剣に考えないでください。答えは簡単です。まずは世界一高いピラミッドの頂上に登り、そこに小石を一個置くのです。これで世界一高いピラミッドの完成です。

大学での研究もこれに似たところがあります。まずは先人が積み上げた研究成果——これを先行研究といいます——を学び、その上に新たな成果を重ねることが必要です。もちろん先行研究をただ鵜呑みにしたのでは、新たな研究テーマは見つかりません。先人の研究成果に敬意を払いながらも、「本当にそうなのだろうか」という批判的思考（critical thinking）を持つことが大切です。ときには先人が積み上げたピラミッドとはまったく別に、新しいピラミッドを基礎から作り直すこともあるでしょう。これを米の科学史家T・クーン（Thomas Samuel Kuhn 1922-1996）は、「科学革命 scientific revolution」あるいは「パラダイム・シフト paradigm shift」と呼んでいます。

📖 *Thomas Samuel Kuhn: The Structure of Scientific Revolutions, University of Chicago Press, 1962*（邦訳：中山茂訳『科学革命の構造』みすず書房 1971年）



①研究テーマを見つける

②先行研究を調べる

③プレゼンテーション

④ディスカッション

(3) プレゼンテーション

プレゼンテーションは、論文やレポートと同じく、人に研究成果を伝えることを目的としています。しかし、その方法は大きく異なります。まずはプレゼンテーションの長所と短所を整理しておきましょう。

【長所】

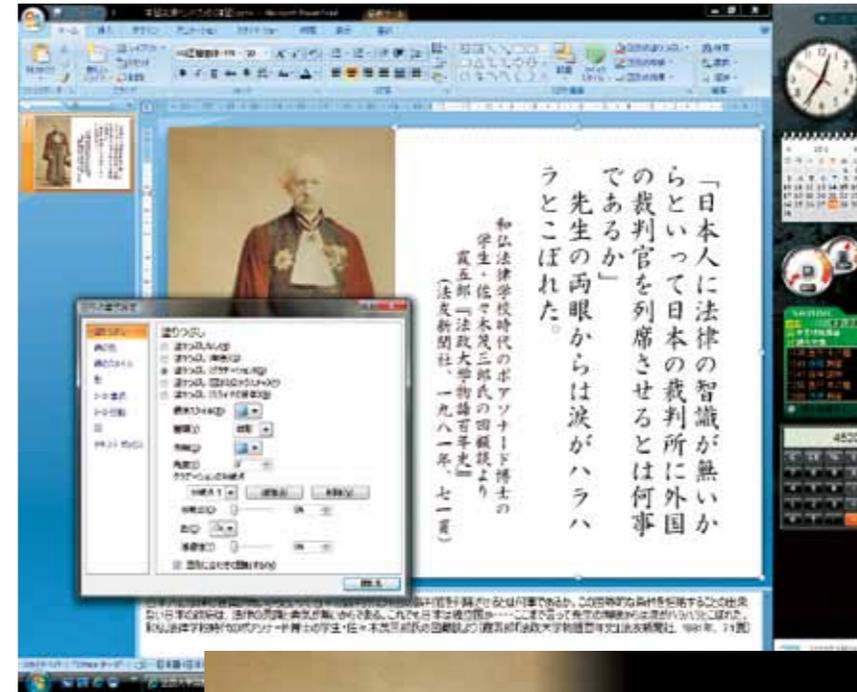
- ①文字や図版だけでなく、音声や動画などさまざまなメディアが使える
- ②聞き手の反応を見ながら、発表のしかたを工夫することができる

【短所】

- ①決められた時間内に発表を終わらせなければならない
- ②文章のように読み返しができないため、時間軸に沿った情報提供となる

長所①を生かすためにマスターしたいのが、プレゼンテーション・ツールの使い方です。Microsoft社のPowerPoint®やGoogle™ドキュメントなどがよく使われていますが、こうしたツールを使いこなすことで、文字や図版、音声や動画などをシームレスに組み合わせたプレゼンテーションを行なうことができます。右ページの図は、PowerPoint®によって写真と文字を組み合わせたスライドです。必要に応じてこれに音声を加えたり、動画を挿入したりすることもできます。

一方、聞き手から見た場合、短所②に挙げたように、プレゼンテーションは時間軸に沿ったシーケンシャル (sequential) な情報提供となり、文章のようなランダム (random) な情報検索——わからないところを読み返したり、不要なところは読み飛ばしたりすること——はできません。このためスライドだけではなく、要点や資料をまとめたプリントなども同時に配布するとよいでしょう。



例：PowerPoint®によって写真と文字を組み合わせたスライド

スライド作成のチェックポイント

- プレゼンテーションには通常時間制限が設けられています。発表が時間内に終わるようにスライドの枚数を調整するとともに、本番前には必ず予行演習をするようにしましょう。
- スライドの文字が見にくいと、プレゼンテーションの効果が半減してしまいます。一番後ろの席からもスライドの文字が見えるように、フォントの大きさや色に注意しましょう。
- 文献やデータを引用するときには、論文やレポートの場合と同じく、必ず出典を明記しましょう。
- 音声や動画はスライドのファイルの中には取り込まれない場合があります。音声や動画を使うときは、注意が必要です。

📖 *Karl Raimund Popper: The Logic of Scientific Discovery (translation of Logik der Forschung 1935). Hutchinson, London, 1959* (邦訳: 大内義一、森博訳『科学的発見の論理』上、下 (恒星社厚生閣1971、72年)

ディスカッションのチェックポイント

☑️ ディスカッションは、演習の参加者全員が意見や質問を述べる権利と義務を有しています。他の人の意見にしっかり耳を傾け、議論に参加するようにしましょう。

☑️ 意見を述べるときは「反証可能性」を保証し、論拠となる資料やデータを用意して、生産的な議論になるよう心がけましょう。

(4) ディスカッション

プレゼンテーションと並んで、演習のもう一つの柱となるのがディスカッションです。ディスカッションの目的は、他の人の考え方や感じ方を知るとともに、議論の中で論理の矛盾や論証の不足などを指摘しあい、研究の質を高めることにあります。ときには人からよいアイデアをもらうことで、研究が飛躍的に発展することもあります。

演習でのディスカッションで大切なことは、論拠を明確にし、正しいことは正しい、間違っていることは間違っていると、他の人が判断できるような議論をすることにあります。これをオーストリア出身の哲学者カール・ポパー (Karl Raimund Popper 1902-1994) は「反証可能性 (falsifiability)」と呼んでいます。

たとえば、「最近、外国人による犯罪が多い」というのは、ディスカッションの議論ではありません。なぜなら「多い」と感じるかどうかは個人的な感覚に過ぎないからです。一方、これを「最近、外国人による犯罪が増加している」といえば、反証が可能となり、議論が成立します。演習の中に犯罪統計に詳しい人がいれば、きっとこう反論するでしょう。「あなたの意見は間違っています。平成22年度の『犯罪白書』によれば、外国人による一般刑法犯の検挙件数は、平成17年度の43,622件をピークとしてその後は減少に転じており、平成21年には30,569件と30%も減少しています。」

こうしたルールを守って議論することで、ディスカッションはより生産的なものとなるはずです。

ICHIGAYA CAMPUS

キャンパス紹介





ボアソの上層階から見る景色

富士見坂校舎5階の庭園

キャンパスおすすめスポット

自習室スタディー・ルームは快適



授業の空き時間の過ごし方

周辺にあるごはん屋さん巡り

神保町の古書店街をぶらぶら



温玉からあげ井

学食のおすすめメニュー

かっせ法政井



学祭がにぎやか!!

法政大学の良いところ

ボランティアセンターやキャリアセンターなど学生に対するサポートが充実している。

多摩キャンパスはp.55、小金井キャンパスはp.73に掲載しています。

レポートを書く

大学においては、「講義を聴く」という受け身の姿勢だけでは、本当の意味で学んだことになりません。「自分で学び、考える」という能動的な学習をすることが大切です。

そのため、大学では学生にレポートを課すことがしばしばあり、それが成績評価の対象となります。授業の種類等によってどのようなものが求められるかが異なりますが、基本的にレポートとは、「これまでの研究成果を参考にしながら、客観的事実やデータを分析し、自分の考察を述べるもの」です。レポートは、高校生までに書いてきた作文や感想文とは全く違うものですので、注意が必要です。

提出締切日までに、与えられたレポート課題の意図するところをよく考え、テーマにふさわしいデータ・資料を集め、分析し、執筆を進めなければいけません。ここでは、レポート提出までのおおよその手順について見ていきましょう。

①テーマの絞り込み

②先行研究・データの収集

③構成の組み立て

④執筆

⑤文章の推敲・最終チェック

⑥提出

①与えられたレポートの課題をよく理解し、さらにテーマを絞り込む

与えられるレポート課題は抽象的であったり、漠然としたものであったりします。課題をもとに、どのような問題が重要かをよく考え、自分の主張したいことを絞り込む必要があります。また、提出書式や締切日、提出方法もあらかじめ確認しておきましょう。

②図書館やインターネットで、先行研究等を収集する

テーマが決まったら、図書館やインターネットを利用して、先行研究等を収集します。これまでにどのような研究が行われているのかを確認するとともに、自分のレポートにとって必要なデータなどを集めましょう。

③集めた情報を整理し、レポートの構成（章立て・節立て）を考える

自分のレポートに必要な情報を吟味しながら、レポートの骨組みを考えていきます。レポート・論文の場合、以下の「三部構成」が構成としてふさわしいものといえます。

〈序論〉このレポートが、何を明らかにするものであるかを提示します

〈本論〉客観的な根拠をあげて、それに基づき、自分の主張を述べます

〈結論〉全体のまとめを行います

④アウトラインに基づき、執筆を進める

実際にレポートを書いてみます。文章にしていくことにより、自分の考えが明確になると、意見を主張するためにどのような根拠が必要かが改めて見えてきます。上記①②③を見直し、修正していきながら書き進めていきましょう。

⑤文章の推敲を行ったり、指定された要項に合っているかどうか確認する

一度書き上がったら、冷静に読み返してみて、自分の考えが適切な根拠に基づき、わかりやすく説明できているかどうか確認します。

⑥指示された方法で、締切までにレポートを提出する

いくら優れた内容でも、指示された方法で締切日までに提出しなければ、評価されません。どこに、どのように提出するか、また、締切日・時間をよく確認しておくことが大切です。

レポートや論文の書き方については、多くの図書が出版されており、それらは図書館にも所蔵されています。そうしたものを参考にし、優れたレポートが書けるよう努力しましょう。

レポート提出前のチェックポイント例

論理的な構成になっていますか。矛盾はありませんか。

レポートにふさわしい言葉遣いをしていますか。

文体は「だ」「である」調で統一されていますか。

参考文献の内容と自分の主張は、はっきり区別できていますか。出典の掲載の仕方は適切ですか。

指定された用紙、分量、書式になっていますか。

レポート書式の例

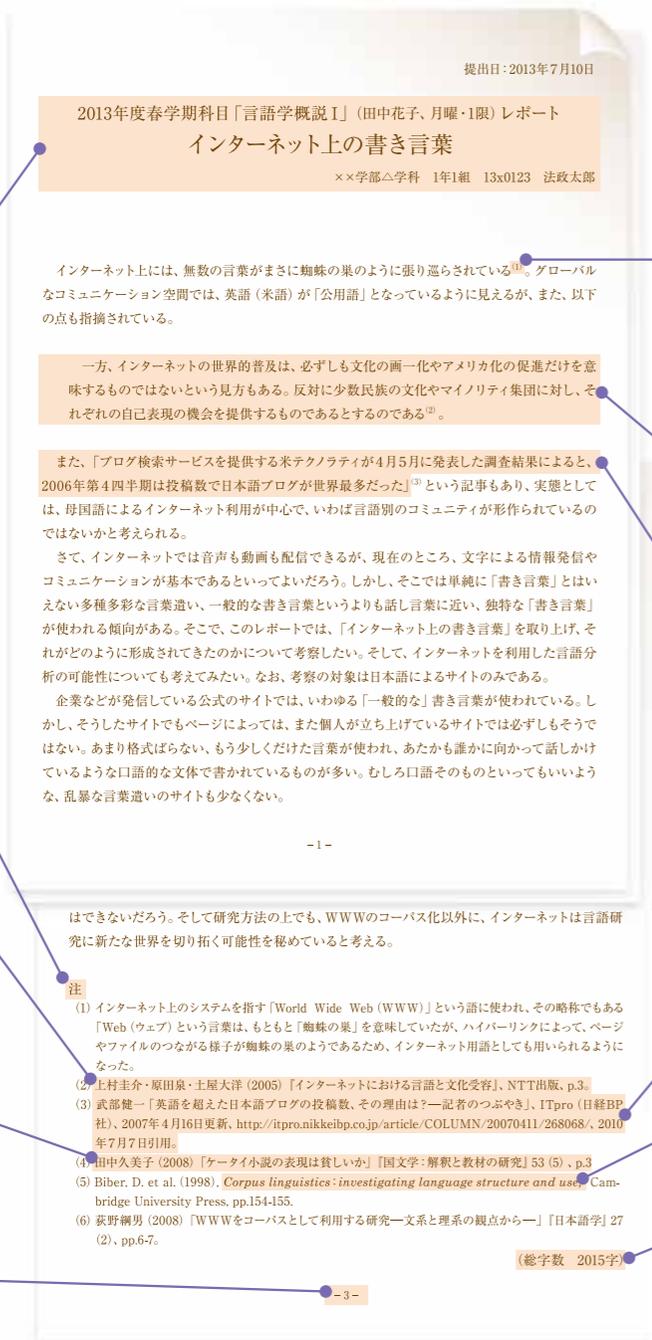
はじめに、科目、教員名、開講曜日・時限、レポートのテーマ、自分の学部(学科)・学年・クラス・学生証番号・名前を必ず書くこと。1枚目は表紙にして、そこに記載するよう指示する教員もいます。そのほか、所定の表紙や用紙が指定される場合もあるので、レポート要項をよく確認しましょう。

「注」は補足説明のみとし、別に「引用文献」や「参考文献」の項目を立て、そこに出典をまとめる方法もあります。

単行本から引用した場合は、編著者名、発行年(月)、書名、出版社名、引用ページを記します。

雑誌論文を引用した場合は、著者名、発行年(月)、論文名、雑誌名(発行所名)、巻号、引用ページを記します。

複数ページにわたる場合は、ページ番号をつけましょう。



注番号を付け、その箇所に関する補足説明や引用の出典を各ページの下に(脚注)、またはレポートの最後に(後注)まとめて記します。

2文以上の長い引用は、上下を1行ずつ空け、左から2字下げで記します。

短い引用は、カギカッコでどこからどこまで引用であることを明確に示し、文中に入れます。

サイトから引用した場合は、著者名、ページタイトル、サイト名、最終更新日、URL、引用した日付を記します。

洋書の場合、書名はイタリックで書きます。

字数指定がある場合、総字数を書いておきましょう。

【コラム】 ひょうせつ 剽窃 (plagiarism) とは

提出されるレポートの中には、残念ながら、参考資料をただ丸写ししたものやインターネットで見つけたサイトをコピー＆ペーストしただけのものも見受けられます。こうした行為は「剽窃行為(plagiarism)」といい、絶対にしてはならないことです。

他人の説をあたかも自分の説であるかのように述べるのは、学問の世界では許されざる行為であり、著作権法上の問題も生じます。自分の主張と参考にした文献からの引用は明確に分けて表記し、引用部分については何から引用したのかを明示しなければいけません。その示し方は、学問分野や書式(縦書きや横書きか、また和文か欧文か等)によって異なりますので、自分のレポートにあった形で適切に記す必要があります。レポート執筆の際、参考にした論文等ではどのように文献の引用をしているのか、またどのようにその出典を明示しているかを確認して、内容だけではなく、その書式も学び、自分のレポートに活かしましょう。

※剽窃・カンニング等の不正行為を行った学生に対し、大学は厳正に対処しています。



信頼できる情報を集める

～図書館で・インターネットで～

前述のとおり、大学ではプレゼンテーションをしたり、レポートを作成する機会が増えます。また、学部によっては卒業論文やゼミ論文の提出を課しています。

質の高いプレゼンテーション・レポート・論文のためには、自分の取り組むテーマに関する先行研究や自分の考えの論拠となる資料やデータについて情報をつかむことが必要ですが、その際、信頼のおける情報をどれだけの確に集められるかが重要になってきます。

プレゼンテーションやレポートに必要な文献などの情報を収集するには、

- ・ 図書館を利用する
- ・ インターネットを利用する

といった手段がありますが、自分の欲しい情報を集めるのは意外と難しいものです。

例えば、図書館にはとても多くの資料が所蔵されていますが、その量があまりにも膨大で、読まなければいけない本がどこにあるのか、さっぱり見当もつかないということもあるかもしれません。また、検索エンジンを使って、インターネットから情報を得る場合も、その検索結果から、学術的に信用できるものを選別するのは大変な作業になります。

では、いったいどのようにすれば、自分が必要とする情報にたどり着けるのでしょうか。このハンドブックでは、以上の2つの方法を中心に、情報収集のためのちょっとしたコツを紹介していきたいと思います。

レファレンスカウンターを利用してみよう！

レファレンスカウンターとは、図書館の「相談窓口」です。図書館員の人たちは、図書館利用・資料検索のプロ。図書館を効率よく利用し、欲しい情報を探し出す方法を、親切かつ的確にアドバイスしてくれます。図書館を利用して困った時には、気軽に質問したり、相談したりしてみましょう。（でも、レポートの答えまでは教えてくれませんよ!）

〈市ヶ谷図書館〉80年館地下1階

〈多摩図書館〉3号館1階

〈小金井図書館〉南館1階



大学の図書館を使いこなそう！

図書館利用のチェックポイント

- ☑ あなたの読みたい本は、図書館にありますか？法政大学図書館に必要な本があるか、その本が貸出中でないかどうかは、インターネットを使って自宅からも調べることができます。
- ☑ 返却期限の過ぎた本はありませんか？学生への館外貸出は10冊まで、期間は2週間（雑誌は1週間）です。延滞中の本がある場合は、貸出はできません。
- ☑ 図書館は開いていますか？休館日や開館時間については、法政大学図書館公式サイトの中の「開館日程」を参照してください。
- ☑ 学生証を携帯していますか？図書館に入るには、学生証をゲートに通すことになっています。本の貸出にも学生証が必要です。

大学で充実した学生生活、研究生活を送れるか否かは、「知の集積」である図書館と上手につきあえるかどうかにかかっているといっても過言ではありません。図書館を使いこなすには、その雰囲気慣れることが一番の近道です。とにかくまずは図書館に行ってみましょう。

法政大学図書館は、〈市ヶ谷図書館〉〈多摩図書館〉〈小金井図書館〉と、各キャンパスにあります。

- 〈市ヶ谷図書館〉 80年館地下4階～2階、富士見坂校舎1階（ラーニング・commons）・田町校舎5階（閲覧室）
- 〈多摩図書館〉 3号館地下2階～4階
- 〈小金井図書館〉 南館地下1階・1階・3階、西館地下1階（メディアライブラリー）
※小金井メディアライブラリーは、2013年9月より南館3階に移転予定

図書館は開架、閉架書に分かれており、開架にはやや一般向けの資料、閉架にはより専門的な内容を持つ資料が置かれています。いずれも直接書架に行き利用することができますが、閉架書の資料や貴重書を利用する時は、各図書館カウンターで利用方法を確認して下さい。

【法政大学図書館公式サイト】
<http://www.hosei.ac.jp/library/>

(1) 自分に必要な資料が決まっている場合

教員から与えられた課題によっては、参考資料が指定されていることがあります。そんな時には^{オーバック}OPACを使って、その資料が大学の図書館にあるかどうか探してみましょう。

- [法政大学図書館OPACで検索する](#)

【法政大学図書館OPAC】
OPAC <http://opac.lib.hosei.ac.jp/>
(パソコン・スマートフォン)
Mobile-OPAC <http://m.lib.hosei.ac.jp/m/> (携帯電話)



法政大学図書館オンライン目録OPACは、資料探しの必須ツールです。各図書館のOPACコーナーで利用できる他、自宅のパソコンやスマートフォン携帯電話からでも、上記のURLにアクセスして利用することができます。

検索結果には、書名、所蔵館、請求記号、配架場所等のほか、資料によっては目次・あらすじも表示されます。検索結果をプリントアウトしたり、メモをとったりして、必要な情報を手に入れたら、資料の配架場所に向かい、必要に応じて閲覧室で読んだり、館外に借り出したりしましょう。

OPACには資料検索の他、以下の機能があります。

- **資料の予約** …… 利用したい資料が貸出中の場合、次の利用を予約できます。
- **資料の取寄せ** …… 利用したい資料が他キャンパスの図書館にある場合、自分の希望する図書館で受け取ることができます。ただし、大学紀要や新刊雑誌等は、カウンターで取り寄せを申し込んでください。
- **貸出予約照会** …… 現在借りている資料や返却期限等が確認できます。
- **貸出期間の延長** …… 資料の貸出期間の延長ができます（図書のみ3回まで）。

OPACでは、書名検索のほか、キーワード検索、著者検索、出版者検索ができます。これらを使えば、本の正確な題名がわからなくても検索が可能です。

資料によっては図書館ではなく、研究所や学部資料室に所蔵されているものもあります。その時は、図書館のカウンターで利用方法をたずねてください。

・書架に直接行く

自分に必要な資料の題名等が具体的にはっきりしていない場合でも、その分野がおよそ決まっていれば、直接書架に行き探すという方法もあります。

図書館の資料はその内容によって、日本十進分類法（NDC）で分類されています（一部の資料は法政大学図書館分類法によります）。自分の知りたい分野が配置されている書架に行き、実際に資料を確認しながら探してみましょう。関連した資料はまとめて配置されていますので、比較的、網羅した形で資料を手に入れることができます。

【参考】日本十進分類法（抜粋）

000	総記	500	技術
100	哲学	600	産業
200	歴史	700	芸術
300	社会科学	800	言語
400	自然科学	900	文学

(2) 自分の必要とする資料が具体的にわからない場合

ゼミのプレゼンテーションや卒業論文の場合、またレポートによっては、テーマを自分で設定したり、参考資料が指定されていないために、読まなければいけない資料は何かということから自分で考えないといけなかったりします。

そんな時も、まず図書館の「参考図書コーナー」に行ってみましょう。参考図書（レファレンスブック）とは「調べ物をするための資料」です。ここには、基本的な知識・情報を得るための図書（辞典・事典やガイドブック等）や資料を探すための図書（索引等）が置かれています。

こうした参考図書から基本的な知識を得て、どのような方針で調べるか見通しを立ててみましょう。テーマに関わるようなキーワードが見つけれたら、OPACで検索して、自分に必要な図書を探し出すことができます。

各図書館の参考図書コーナー（以下の他、閉架書庫にも配架されています）

〈市ヶ谷図書館〉80年館地下1階

〈多摩図書館〉3号館1階

〈小金井図書館〉南館1階

参考図書は、館外貸出はできません。図書館の中で利用してください。



インターネットで文献を探してみよう!

情報を収集するのにインターネットはとても便利な手段ですが、誤った情報も少なくなく、プレゼンテーションやレポートに有益なものばかりとは限りません。情報の信頼性を判断するには、実は、よほど勉強しなければ不可能なのです。

しかし、せっかくの便利な手段を利用しない手はありません。こんな時も法政大学図書館公式サイトにアクセスしてみましょう! オンライン・データベースのコーナーがあり、学習に役立つ情報がたくさん詰まっています。

ここではその中のいくつかを紹介してみましょう。具体的な検索の方法については図書館員にたずねたり、ガイダンスに参加して確認して下さい。自分の研究のために、ぜひ積極的に利用しましょう!

【自宅から法政大学図書館のオンライン・データベースを利用するには】

オンライン・データベースの中で「自宅利用不可」の表示のあるもの以外は、大学内だけでなく、自宅のパソコン等、キャンパス外でも利用できますが、その際、VPN接続をする必要があります。VPN接続サービスには、IPsec-VPNとSSL-VPN（クライアントレス）、SSL-VPN（AnyConnect）の3種類があります。

SSL-VPN（クライアントレス）経由で利用する場合は、以下のURLに接続し、ユーザー IDとパスワードを入力してください（学外環境からのみ利用可能）。

<https://vpn.hosei.ac.jp/>

認証が成功したら、[図書館] のアイコンをクリックしてください。

データベースによってはSSL-VPN（AnyConnect）やIPsec-VPNでないと利用できないものもあります。どちらも専用のソフトウェアをインストールする必要があります。詳しくは総合情報センター発行の利用ガイドもしくはnet2010ユーザー支援サイト（<https://net2010.hosei.ac.jp>）を参照してください。

法政大学図書館では、例えば以下のようなサービスを行い、学生の皆さんの学習支援をしています。

- ・図書館ガイダンスの開催
- ・図書館公式サイトでの情報提供
- ・パスファインダー（調べ方の近道ガイド）の発行
- ・ゼミサポート制
- ・大学院生（学習アドバイザー）による学習相談

これらの他、さまざまなイベントや企画を行っていますので、積極的に利用しましょう。

詳しくは、公式サイトや掲示を見て下さい。

(1) オンラインで辞書や事典を引く

図書館公式サイト → オンライン・データベース → 辞書・辞典・年表

「日本大百科全書」「日本国語大辞典」「現代用語の基礎知識」などの百科事典、辞書、ニュース、学術サイト、会社四季報など約50種にも及ぶコンテンツが利用できるJapan Knowledge+や、ブリタニカ国際大百科事典の日本語版、英語版、中国語版、韓国語版、スペイン語版、フランス語版が利用できるEncyclopaedia Britannica Online Japanがあります。

(2) オンラインで過去の新聞記事を読む

図書館公式サイト → オンライン・データベース → 新聞

朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、日経四紙など国内主要紙の記事検索データベースのほか、英London Times紙の1785年の創刊から1985年まで200年間の全紙面を検索・閲覧できるTHE TIMES Digital Archive 1785-1985、米New York Times紙の1851年の創刊から最新号までを検索・閲覧できるデータベースがあります。



閉架の図書館は、大学内のおすすめスポット! (本好きにはたまらなからんかぐわしいにおい)



(3) 法政大学以外の図書館の蔵書検索

図書館公式サイト → オンライン・データベース → 資料目録 (図書・雑誌)

法政大学図書館OPACでは本学の図書館には所蔵されている図書しか検索できません。過去に出版された図書や本学以外の図書館の蔵書は、下記のデータベースで調べることができます。

- **NDL-OPAC (国立国会図書館蔵書検索・申込システム)**

国会図書館が所蔵する文献を検索することができます。日本国内の出版物は国立国会図書館に納めなければならないという「納本制度」があるので、国内で刊行されているものについて、網羅的に調べることもできます。

- **bookplus (紀伊國屋書店／トーハン／日本出版販売／日外アソシエーツ)**

昭和元年より現在までに出版された本の情報、約400万件を検索できます。絶版書・非流通本なども多数収録しています。1986年以降の本には、要旨・目次情報、小説のあらすじも収録されています。2001年以降の本には、著者紹介情報も掲載されています。

- **CiNii Books (国立情報学研究所)**

全国の大学図書館（そのほか研究機関、一部の公立図書館も）が所蔵している学術図書、雑誌を横断検索できます。

(4) 雑誌掲載論文の検索

図書館公式サイト → オンライン・データベース → 和文雑誌・欧文雑誌

研究成果が発表されるのは図書だけではなくありません。学会誌や紀要などの定期刊行物にも多くの論文が発表されています。どのような定期刊行物にどのような論文が掲載されているかについては、NDL-OPACのほか、以下のデータベースで調べることができます。

- **CiNii Articles (国立情報学研究所)**

国内最大級の雑誌・論文記事データベースです。学術雑誌や研究紀要に掲載された論文が検索でき、論文によっては本文そのものを読むこともできます。

- **magazineplus**

(国立国会図書館／機械振興協会／経済文献研究会／岩田書院／日外アソシエーツ)

これも雑誌・論文記事のデータベースですが、NDL-OPACやCiNiiが学術文献を中心に収録しているのに対し、学術雑誌のみならず一般誌・業界誌や年報類、また論文集所収のものまで幅広く採録しているのが特徴です。

必要な論文が見つかったら、掲載誌がどこに所蔵されているかを法政大学図書館OPACやCiNii Booksで確認して入手しましょう。



雑誌掲載論文も調べられるNDL-OPAC

・「NDL-OPAC」には雑誌記事索引の機能もあり、キーワードを入力すれば、人文科学・社会科学・自然科学の雑誌記事・論文の題と掲載雑誌(国内発行の学術雑誌、専門誌が中心)が検索できます。

【法政大学図書館にない資料を手に入れるには】

• 法政大学各図書館のレファレンスカウンターを利用する

どの図書館に所蔵されているか確認できたら、図書館間相互協力によって、レファレンスカウンターを通じ、図書の取り寄せや複写のサービスを受けることができます。直接、その図書館を訪問する場合は、紹介状を発行してくれます。

一部のサービスについて、OPACよりオンライン申込みもできます。

• 法政大学各図書館に購入希望を出す

図書を購入してほしい時には、閉架・開架各カウンターで依頼することができます。また、OPACよりオンライン申込みもできます。

• 山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム加盟図書館を利用する

法政大学図書館は山手線沿線私立大学図書館コンソーシアムに加盟していますので、加盟図書館との相互サービスを受けることができます。加盟図書館を直接利用することが可能ですが、それぞれの図書館の利用規定をよく確認した上で利用しましょう。

• 国立国会図書館を利用する

「NDL-OPAC」で東京本館に所蔵されていることが確認できたら、直接、国会図書館に行くのも一つの方法です。満18歳以上なら誰でも利用できますが、利用の仕方に、大学図書館や一般の図書館とは異なる点がありますので、注意して下さい。なお、国会図書館では個人への館外貸出は行っていません（制限はありますが、複写は可能です）。

TAMA CAMPUS

キャンパス紹介



法政大学の良いところ

自然が豊か

学祭が盛りあがるころ！
自分のキャンパスだけでなく
他のキャンパスに行っても楽しい。

授業の空き時間の過ごし方

食堂で友達とおしゃべりをしたり、
図書館で映画を見たり。



学食のおすすめメニュー

総合棟食堂の唐揚げ丼

温玉からあげ丼



図書館の読書スペース
(すごく落ち着ける)

Vブリッジ
(晴れていると最高!)

キャンパスおすすめスポット

円芝。他学部の
友達との待ち合
わせ場所にしたり、
ゆっくりくつろ
いだり...



大学生活で得たもの

「経験」です。新しいバイトに
チャレンジしたり、今まで読ん
だこともない難しい文献をゼミ
の友達と頑張って読んだり。

市ヶ谷キャンパスはp.39、小金井キャンパスはp.73に掲載しています。

成績評価を受ける～GPAとは

GPAのチェックポイント

- ☑履修登録を抹消せずE評価となった場合も、その単位数が分母に加算されるためGPAは下がります。受講しない科目は、期限内に履修登録を抹消するようにしましょう。
- ☑不合格(D、E評価)になった科目も再履修して単位が認定されれば、それ以前の評価の代わりに、最後の成績評価のみをGPAに算入します。
- ☑教職科目や資格科目など、卒業所要単位以外で履修する科目はGPAには算入されません。

法政大学では、2008年度以降に開講した全科目においてGPA (Grade Point Average) 制度を導入しています。

(1) 成績評価基準と合格点

① 成績評価基準

成績評価基準は5段階制 (A⁺、A、B、C、D) です。

② 合格点

合格点は60点以上です。

成績評価	合格 (単位修得)				不合格	
	A ⁺	A	B	C	D	E
評価基準	100-90点	89-80点	79-70点	69-60点	59-0点	未受験・他

*評価基準：各担当教員の科目ごとの評価（試験、レポート、出席など）に基づく点数

【目標はB以上】

合格点は60点以上になりますが、これは合格と認められる最低の成績であって、海外の大学などでは70点以上がその科目の要求を満たす成績と考えるところが多いようです。B以上の成績を修めれば、皆さんもその科目を理解したという実感がわくでしょう。皆さんが常にB以上の成績を修められることを期待します。

(2) GPA制度について

① GP (Grade Point) について

上記の5段階の成績評価A⁺、A、B、C、Dと未受験・その他の場合の評価Eに、それぞれグレードポイント (Grade Point) がつきます。5段階の成績評価と評価基準とグレードポイントの関係は次のとおりとなります。

成績評価	合格 (単位修得)				不合格	
	A ⁺	A	B	C	D	E
評価基準	100-90点	89-80点	79-70点	69-60点	59-0点	未受験・他
GP	4	3	2	1	0	0

② GPA (Grade Point Average) について

皆さんが履修した科目の成績評価としてA⁺からDまでの5段階評価がつきますが、5段階評価およびEを4～0までのポイントに置き換え、履修した単位数を掛けます。これがその科目のポイント数になります。さらに履修したすべての科目のポイント数を合計し、履修単位総数で割って平均点を算出します。これがGPA (Grade Point Average) です。GPAの算出方法については次のとおりです。計算値は小数点以下第3位を四捨五入して表記します。

$$GPA = \frac{(\text{履修登録した各科目のGP} \times \text{その科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{履修登録した全科目の総単位数}}$$

③ GPAを表示する書類について

・成績通知書

- i. 各学期・セメスターのGPA
- ii. 直近の学期・セメスターまでを通算したGPA

・成績証明書

直近の学期・セメスターまでを通算したGPA

④ 登録の抹消について

未受験その他によるE評価の科目は、GPA計算式において、GPを0点として分子に算入し、単位数を分母に算入しますので、E評価が多いほどGPAが低下します。その理由は、皆さんがしっかりとシラバスを読み、履修したい科目を慎重に決めたうえで、科目登録してもらいたいからです。一度登録した科目は責任をもって履修してください。ただし、一定期間内に申し出れば、登録を抹消することができます。登録抹消の期限については、各所属の指示等で必ず確認するようにしましょう。

⑤ 活用方法

GPAはみなさんの成績を数値化し、客観的にみるための手段です。セメスターごとと通算の二つのデータが出されるので、1年次と2年次、あるいは3年次、4年次の成績を比較したり、推移を確認することで学習効果を自分で確認することができます。GPAが上がっていれば、さらなる学習の展望が拓けます。また、下がっていれば、なぜ下がったのかを分析し、成績向上につなげられます。GPA制度によって、皆さんは自分の学習を自分で管理できるようになるため、この制度を活用し、大いに役立ててください。

D・E評価が多いほど
GPAが低下します。

法政大学の良いところは、
自由な校風で、自分の好きなように学べる所!!



【海外大学の事例紹介】

GPA制度は米国やヨーロッパの大学においても用いられている国際的な成績評価システムといえます。一般的にどのように利用されているのかといえば、学生が自分の学習状況を客観的に把握し、学習を促進するツールとして用いられています。たとえば、すべての科目の成績評価がCだとしても、すると、GPAは「1」になります。日本の多くの大学においては、この成績で卒業できると思います。しかし、米国の大学の場合、入学時からの通算GPAが「2」以上でなければならないとしている大学もあり、卒業できないこととなります。これは、卒業生の質を保証するためです。学生は卒業要件であるGPA「2」をクリアしようと学習計画を立てます。また、よく誰々氏は何々大学を首席で卒業したなどと言われますが、成績優秀者はGPAで決めます。身近なケースを例にとれば、皆さんが海外の大学へ留学される場合、あるいは海外の大学院へ進学を希望される場合、GPAの提示を求められることがあります。これは、入学の条件として、一定のGPA値を課しているためです。



本学の派遣留学制度協定校の一つ米国バイラー大学

FAQ

Q GPAが何かに利用されることはありますか？

A GPA制度は欧米の大学においても用いられている国際的な成績評価システムですので、海外の大学院進学の際には提示を求められることがあります。GPAは選抜基準の参考になる可能性があります。

Q GPA算出の具体例を教えてください。

A 評価がすべて「A⁺」であれば、GPAは「4」となり、すべて「D」であれば「0」となります。具体的な例として下記「法政太郎さんの成績表」を参照してください。

【例】法政太郎さんの成績表

科目名称	評価	GP	単位数	GP×単位数
人間環境学入門 I	A ⁺	4	2	8
英語 I	C	1	1	1
英語 II	E	0	1	0
フランス語 I	A	3	1	3
スポーツ種目 I	B	2	1	2
行政法の基礎	A	3	2	6
NPO・ボランティア論	B	2	2	4
自然環境論 I	A ⁺	4	2	8
生命科学 I	B	2	2	4
地理学 I	D	0	2	0
情報処理基礎	A	3	2	6
基礎演習	B	2	2	4
統計処理 I	A ⁺	4	2	8
合 計			22	54

(各科目のGP×単位数)の総和(54)÷総単位数(22) = GPA(2.45)

Q GPAの算出には不合格科目 (D, E評価) も算入されますか？

A はい、されます。よって、不合格科目が多ければ多いほどGPAは低下します。

Q GPAの算出には教職・資格科目など卒業所要単位外で履修する科目も算入されますか？

A いいえ、されません。
ただし、卒業所要単位を超えて履修した基礎科目・専門科目についてはGPAに算入されません。

Q 修得単位認定 (R評価) や留学による外国大学の修得単位認定 (S評価) はどのように扱われますか？

A R評価やS評価についてはGPAに算入されません。また、グレード評価には馴染まない各学部・学科等が判断した科目については「Pass (合格) / Fail (不合格)」(P-F評価) という形で成績評価をすることもあります。P-F評価指定科目についても同様にGPAには算入されません。

Q 不合格科目 (D, E評価) を再履修して単位修得した場合のGPAはどのように扱われますか？

A 不合格科目 (D, E評価) でも再履修の結果、単位が認定されれば、それ以前の評価の代わりに、最後の成績評価のみをGPAに算入します。ただし、学期・セメスターごとのGPAについては、さかのぼって修正することはしません。

大学生生活で得たものは、地方出身の友人です！



授業改善アンケート

(1) 授業改善アンケートとは

「この授業、わかりにくいな」、「こうすればもっと面白くなるのに」。そんな感想や意見をもったことはありませんか。

学生の皆さんの声を大学のFD活動に生かすため、法政大学では2004年度から原則としてすべての学部・学科、大学院（博士後期課程は非実施）で「学生による授業評価アンケート」を実施してきました。さらに2009年度からは「学生による授業改善アンケート」と名称を改め、従来の段階評価中心の質問項目に代えて、より具体的な質問項目や自由記述欄を多く含むアンケートを実施することになりました。実施方法については、学生の皆さんが責任をもって回答できるよう、2009年度から従来の無記名式から記名式に変更しました。また学期の途中でも改善の効果を出せるよう、従来の学期末アンケートに加えて、学期初めと学期途中の3種類のアンケートを用意し、必要に応じて実施できるようにしました（大学院は学期末のみ）。

(2) アンケートの集計と分析

それでは、皆さんに回答していただいたアンケートは、その後どうなるのでしょうか。アンケートの回答用紙は、大学が回収した後、授業ごとに集計され、担当教員にその結果が通知されます。右ページの図は2012年度前期の「学生による授業改善アンケート〈期末〉」の集計結果です。ここには「この授業を履修してよかったと思いますか」などの質問に対する回答結果が、パーセントによって表示され、最後に自由記述欄に寄せられた意見や感想がまとめられています。

FDってなに？

・FDとはFaculty Developmentの略。大学などの教育機関が教育の質を向上するために行っている取り組みをいいます。法政大学教育開発支援機構FD推進センターではFDを「“自由と進歩”の建学の精神に基づく教育理念と教育目標を達成するためになされる、教育および学びの質の向上を目的とした教員・職員・学生による組織的・継続的な取り組み」と定義しています。

記名式だと成績評価に影響しませんか？

・授業改善アンケートは記名式ですが、皆さんの回答が成績評価に影響することはありません。
 ・アンケートの集計は大学が行い、担当教員へは集計結果と自由記述欄の内容だけが、右ページの図のようなフォームに印刷されて渡されます。

大学内おすすめ
スポットは学食！
安くておいしいよ！



2012年度前期「学生による授業改善アンケート〈期末〉」集計結果(学部/担当教員別)

学部	担当教員	授業名	履修者数	有効回答数	有効回答率
経済学部	佐藤 隆	経済学	100	85	85%
		経済学	100	85	85%
		経済学	100	85	85%
		経済学	100	85	85%
経済学部	佐藤 隆	経済学	100	85	85%
		経済学	100	85	85%
		経済学	100	85	85%
		経済学	100	85	85%
経済学部	佐藤 隆	経済学	100	85	85%
		経済学	100	85	85%
		経済学	100	85	85%
		経済学	100	85	85%
経済学部	佐藤 隆	経済学	100	85	85%
		経済学	100	85	85%
		経済学	100	85	85%
		経済学	100	85	85%

自由記述欄

※ この授業を履修してよかったと思いますか。 (「はい」を選択してください。)

1. この授業を履修してよかったと思いますか。 (「はい」を選択してください。)

2. この授業を履修してよかったと思いますか。 (「はい」を選択してください。)

3. この授業を履修してよかったと思いますか。 (「はい」を選択してください。)

4. この授業を履修してよかったと思いますか。 (「はい」を選択してください。)

5. この授業を履修してよかったと思いますか。 (「はい」を選択してください。)

6. 希望授業は履修して、期待する効果がアップした。具体的な内容を教えてください。(複数回答可)。(コメント欄シート参照)

7. この授業を履修して良かった理由を教えてください。 (複数回答可)。(コメント欄シート参照)

8. 希望授業は履修して、期待する効果がアップした。具体的な内容を教えてください。(複数回答可)。(コメント欄シート参照)

9. この授業を履修して良かった理由を教えてください。 (複数回答可)。(コメント欄シート参照)

「学生による授業改善アンケート〈期末〉」の集計結果の例

授業改善アンケートの チェックポイント

- ☑ アンケートの結果は、授業改善の組織的な取り組みのためのデータとして活用されます。授業改善に寄与するという自負をもって正確かつ責任ある回答を心がけましょう。
- ☑ 自由記述欄に書かれた皆さんの意見や感想は、集計結果にそのまま転記され、担当教員に渡されます。皆さんの意見や感想が授業改善に役立つよう、具体的な記述を心がけるとともに、読み手に不快感を与えるような表現や内容は慎みましょう。

(3) アンケートの活用と成果

「私のアンケート、何かの役に立ってるの？」 そう思った人もいないのでしょうか。各学部や学科、研究科では、アンケートの結果を授業改善に生かすために、さまざまな取り組みを行っています。たとえば、文学部心理学科・人文科学研究科心理学専攻では、各教員がアンケートから得た「気づき」を文章化し、学生がよく利用する実習室わきの掲示板に張り出して、学生へのフィードバックを行っています。また、専門職大学院のイノベーション・マネジメント専攻では、教育の質向上委員会という組織を作り、専攻主任・副主任とともにアンケート結果を検討し、評価が極端に低い授業については、改善のための努力を促しています。

また、シラバスには授業改善アンケートによる気づきの欄も設けられており、授業の担当者がどのような改善の努力を行っているかが分かるようになっています。

(4) あなたの声を授業改善に

FD活動には、教員ばかりでなく、職員、学生の三者が問題意識を共有し、相互に意見交換をしながら組織的な活動を進めていくことが必要です。なかでも実際に授業に参加している皆さんの感想や意見は、教員に多くの「気づき」を与えるばかりでなく、大学全体の教育のあり方を考える上でも重要な手がかりを与えてくれます。

授業改善アンケートを通じて、あなたの声を本学のFD活動に生かしてください。

文学部心理学科・人文科学研究科心理学専攻では、各教員がアンケートから得た「気づき」を文章化し、学生がよく利用する実習室わきの掲示板に張り出しています



学生生活支援 Q&A

Q 海外の大学に留学したいのですが、大学はどんなサポートがありますか？

A **国際交流センター**

法政大学には「法政大学派遣留学制度」、「認定海外留学制度」などの留学制度があります。詳しくは国際交流センター国際交流課をはじめ下記の窓口で相談するか、同センターが配布している「法政大学・海外留学の手引き」をご覧ください。学部独自の留学制度については、各学部事務窓口または国際交流センター、SA課にご相談ください。

【海外留学の相談窓口】

市ヶ谷キャンパス…富士見坂校舎 5階 国際交流センター TEL: 03-3264-9662
 多摩キャンパス…EGG DOME 2階 国際交流センター多摩分室
 TEL: 042-783-2130
 小金井キャンパス…管理棟 3階 国際交流支援室 TEL: 042-387-7018

Q 法政大学の奨学金制度にはどのようなものがありますか？

A **学生センター**

本学で扱っている奨学金には、法政大学独自の奨学金、日本学生支援機構、民間奨学財団・地方公共団体等の奨学金があります。法政大学独自の奨学金には、「経済的支援を主目的としたもの」「学業やさまざまな分野で活躍した学生を奨励するもの」「各学部独自のカリキュラムに沿ったもの」などがあります。奨学金関係掲示板やホームページでこまめに確認してください。特に4月上旬には多くの奨学金の募集があります。また、家計が急変した場合の奨学金もあります。各奨学金の詳細は各キャンパスの奨学金担当窓口にご相談ください。

【奨学金担当窓口】

市ヶ谷キャンパス…外濠校舎 1階 学生センター厚生課 TEL: 03-3264-9486
 多摩キャンパス…EGG DOME 2階 学生センター多摩学生生活課
 TEL: 042-783-2151
 小金井キャンパス…管理棟 2階 学生センター小金井学生生活課 TEL: 042-387-6042

Q 障がいのある友人の力になりたいのですが、具体的にどうしたらいいか、よくわかりません。

A **障がい学生支援室**

障がい学生支援室は、現在、市ヶ谷と多摩の2キャンパスに設置されており、障がいのある学生がその他の学生と同じように講義を受講できるようにするための「講義保障」を中心に、障がい学生が社会へ出るための自立をサポートしています。また、これらの活動は学生ボランティアによって支えられており、障がい学生とともに支援学生の双方が成長できるコミュニティを目指しています。こうした活動に興味のある方は気軽に支援室までお越しください。

【悩みや不安の相談窓口】

市ヶ谷キャンパス…58年館 1階 障がい学生支援室 TEL: 03-3264-6718
 多摩キャンパス…総合棟 2階 障がい学生支援室 TEL: 042-783-4038

Q 「これってセクハラ?」「アカハラかも?」と感じたら、どこに相談すればいいですか？

A **ハラスメント相談室**

ハラスメントの被害を受けていると感じたら、ご相談ください。専門の資格を持つ相談員が相談者のプライバシーに配慮しながらお話をお聞きし、解決に向けてサポートします。一人で来るのが不安な場合は、信頼できる友人や関係者に同行してもらうこともできます。ハラスメント相談室は、ハラスメントのないキャンパスを目指し、防止・啓発活動に取り組んでいます。

【ハラスメントの相談窓口】

ハラスメント相談室
<http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/torikumi/harassment/index.html>
 TEL: 03-3264-4409
 E-mail: stopharass@hosei.ac.jp
 *携帯電話からメールを送信される方は「@adm.hosei.ac.jp」ドメインからのメールを受信できるよう設定して下さい

Q 就職活動の支援はどこで受けることができますか？

A キャリアセンター

キャリアセンターでは、3キャンパス合計で100を超える就職支援行事をはじめ、1年生から参加できる「自分・仕事・社会を知る」をテーマとした講座等も実施しています。また、個別相談では、専任スタッフ以外にもキャリアアドバイザー、シニアアドバイザー、学生サポーター（内定している4年生）といった様々な経験をもつスタッフが、学年や内容に応じた対応をしています。ぜひ一度キャリアセンターへ足を運んでみてください。

【就職活動の相談窓口】

市ヶ谷キャンパス…外濠校舎 2階 キャリアセンター	TEL: 03-3264-9604
多摩キャンパス…総合棟 2階 キャリアセンター	TEL: 042-783-2172
小金井キャンパス…管理棟 2階 キャリアセンター	TEL: 042-387-6486

Q 学生生活や人間関係のことで悩んだり、不安を感じたとき、相談できる場所がありますか？

A 学生相談室

学生相談室では、大学生活で様々な問題に直面したとき、あなたとともに考え、解決の糸口を探したり、よりよい「次の一歩」が踏み出せるよう、お手伝いをしています。誰に相談してよいかわからないとき、一人で悩まず気軽にご相談ください。臨床心理士の資格を持つカウンセラーが相談に応じます。相談内容の秘密は守りますので、安心してご利用ください。

【悩みや不安の相談窓口】

市ヶ谷キャンパス…富士見坂校舎 4階 学生相談室	TEL: 03-3264-9493
多摩キャンパス…総合棟 2階 学生相談室	TEL: 042-783-2158
小金井キャンパス…管理棟 4階 学生相談室	TEL: 042-387-6050

※毎月1回、弁護士による法律相談（無料）も行っています。

Q 授業の空き時間を有効に活用できる場所がありますか？

A ●AVライブラリー（市ヶ谷）、図書館（多摩・小金井）、LLフリーラボルーム（多摩）

新旧名作映画や語学教材を館内ブースで視聴することができます（DVD、LD、ビデオ、CDなど）。英語をはじめ第二外国語の学習の場として、また、授業の合間にお気に入りの作品を鑑賞する空間としてご利用ください。

【DVDやCDが利用できる視聴覚室】

市ヶ谷キャンパス…ボアソナードタワー 3階 AVライブラリー
 多摩キャンパス…多摩図書館 2階 視聴覚室、総合棟2階 LLフリーラボルーム（持ち込みは禁止）
 小金井キャンパス…西館 地下1階 メディアライブラリー
 （※2013年9月より南館3階へ移転予定）

●学習ステーション（市ヶ谷・富士見坂校舎2階）

昼休みや、3・4限にプログラムを開催しています。



あなたも挑戦してみよう！

～法政大学のコンテスト・奨励制度～

論文作成にチャレンジしようと思っているあなたには…

〈法政大学懸賞論文〉

法政大学懸賞論文は、日頃の研鑽成果を発表する場として1978年に創設され、これまで多くの先輩たちが優れた論文を発表し、歴史と伝統を積み重ねてきました。入賞者及び入選者には賞状と賞金が贈られます。(総長特別賞30万円、最優秀賞20万円、優秀賞15万円、佳作5万円、入選1万円〈2012年度〉) 6月上旬に募集要項が公示されますので、皆さんも奮って応募してください。過去の優秀作品ならびに募集要項等の詳細については、下記をご参照ください。

法政大学トップページ → キャンパスライフ → 課外活動 → 法政大学懸賞論文



デジタルスキルに自信のあるあなたには……

〈デジタルコンテンツ・コンテスト〉

デジタルコンテンツ・コンテスト(デジコン)はデジタル技術を駆使して、自分のセンスやアイデア、メッセージを視覚的に「表現」した作品のコンテストです。静止画部門、動画部門、インタラクティブ部門の3部門にわかれており、入賞作品は、皆さんの普段からの制作や努力がなければあり得ない、高度な表現が見られます。6月上旬に募集要項が公示されますので、皆さんも奮って応募して下さい。

法政大学トップページ → キャンパスライフ → 課外活動 → デジタルコンテンツ・コンテスト



授業をもっとよくしたいあなたには…

〈FD学生の声コンクール〉

FDとはFaculty Development の略。法政大学教育開発支援機構FD推進センターでは、FDを「自由と進歩」の建学の精神に基づく教育理念と教育目標を達成するためになされる、教育および学びの質の向上を目的とした教員・職員・学生による組織的・継続的な取り組み」と定義しています。センターでは、本学のFD活動に学生の皆さんの声を活かすため、2008年度から「FD学生の声コンクール」を開催しています。散文、韻文、漫画など形式は自由。入賞者には賞状と賞金が贈られます(最優秀賞5万円、優秀賞2万円、佳作5千円〈2012年度〉)。7月頃に募集要項が公示されますので、皆さん奮ってご応募ください。2012年度を受賞作品がこのハンドブックのp.74に掲載されています。

法政大学トップページ → 教育・研究 → 研究所センター → 研究機関以外のセンター → FD推進センター



授業以外で知的・社会的活動を始めたいあなたには…

〈学生チャレンジ・サポート制度〉

学生チャレンジ・サポート制度は、正課外活動のうち、文化・学術面における多様な知的好奇心・探求心を充足させる活動や、福祉・環境問題への取り組みなど、社会的貢献を果たそうとする活動の中で、大学から優れた活動として認められた場合、1名(1団体)につき、最大20万円まで企画実施のための助成金を給付する制度です。毎年4月～6月までに計画書を提出し、2012年度は市ヶ谷で9件、小金井で5件、多摩で3件が採択されました。

法政大学トップページ → キャンパスライフ → 課外活動 → 学生チャレンジ・サポート制度



留学生のあなた、そして留学生を支援したいあなたには…

〈留学生日本語スピーチコンテスト〉

国際化の流れを受け、法政大学でも留学生数は年々増加しており、2012年度は約470名、23カ国の留学生が学んでいます。これらの留学生が法政大学での学生生活で感じた様々な思いを発表する場が年に1度、6月に開催される「留学生日本語スピーチコンテスト」です。

このスピーチコンテストは、法政大学国際学生交流会（Hi-C オレンジ）が主催し、法政大学後援会と国際交流センター後援のもと、1982年より毎年行われてきました。出場する留学生には日本人学生のサポーターがつき、原稿のチェックや発音の練習などを一緒に行います。留学生と日本人学生がタッグを組み、約1カ月をかけてスピーチを練り上げていくなかで、互いの価値観を理解しあい、交流を深める素晴らしい機会となっています。スピーチの審査は本学の教員や後援会役員などを交え厳正に行われますが、毎年、審査員が選考に頭を悩ませるほど、内容面でも日本語の面でも非常にレベルの高いスピーチが繰り広げられています。

学外で表彰されたあなたには…

〈開かれた法政21「学術・文化奨励金」〉

開かれた法政21「学術・文化奨励金」は、学術・研究活動・ボランティア活動・芸術・芸能等の分野の活動において、学外機関が評価するコンテスト・大会・懸賞論文等で特に秀でた成果を挙げ、受賞・表彰等を受けた実績がある個人や団体に対して、1名（1団体）につき最大30万円まで給付する制度です。毎年11月に申請書を提出し、20名を限度に受給対象者を決定します。この奨励金は原則として返還義務のない給付金です。



KOGANEI CAMPUS



新入生へひとこと!
出来たばかりの北館。中庭がとてもきれいです。

GBC (Glass Box Office Hour Center)

マルチユースホール

キャンパスおすすめスポット

学食のおすすめメニュー
チキン竜田丼

授業の空き時間の過ごし方
部室でまったり

法政大学の良いところ
校舎がキレイ。学生のモチベーションが上がる。
六大学野球が盛り上がるどころ!

自分の世界が広がりますよ!

市ヶ谷キャンパスはp.39、多摩キャンパスはp.55に掲載しています。

2012年度 第5回

FD学生の声 コンクール受賞作品集

第5回となった今年度のテーマは

受けて良かった! 受けてみたい! こんな授業

本学のFD活動に学生のみなさんの声を活かすため、毎年「FD学生の声コンクール」を開催しています。

ひとりの意見も作品に表現することで、多くの人と共有できます。是非、ご応募下さい。

最優秀賞には5万円、優秀賞には2万円、佳作には5千円の賞金が授与されます。

第6回の募集要項は、7月頃にFD推進センターHPまたは、学内掲示板各所に掲示しますので、ご確認ください。

最優秀賞
三野 紗希子
p.76

最優秀賞
川尻 知佳
p.78

優秀賞
社会学科4年
p.80

優秀賞
日本文学科2年
p.85

優秀賞
中山 亜美
p.82

佳作
池田 ひかり
p.86

佳作
御領原 真紀
p.88

佳作
伊藤 瑞木
p.89

佳作
機械工学科3年
p.91

佳作
齋藤 航輝
p.90



FDとは Faculty Developmentの略

法政大学教育開発支援機構FD推進センターでは、FDを「“自由と進歩”の建学の精神に基づく教育理念と教育目標を達成するためになされる、教育および学びの質の向上を目的とした教員・職員・学生による組織的・継続的な取り組み」と定義しています。

このFD活動に学生の皆さんの声を活かすため、センターでは2008年度から「FD学生の声コンクール」を開催しています。

※受賞者が氏名等非公開を希望している場合、氏名等を記載していません。
※学年は受賞時のものです。



社会学部 社会学科 4年 三野 紗希子

1つの正解がない授業

大教室での授業の日。
重い扉を開け、ザワザワとした教室の中にするりと入りこんだ。

今日はどこの席に座ろうかな。
ザワザワとした声に包まれながら、
大教室を見渡せるまんなかの席にすとな、と座った。

先生が教壇近くに立つと、教室はザワザワとした空間から
咳ひとつただけでも響く静けさへと変わっていった。

先生の授業に、板書はない。
マイクを手に握り、大教室をゆっくりと巡回する。
学生が自ら思考を巡らせることのできる声のスピードで、
すこしゆっくりと、言葉を選びとるように話す。
そんな授業。

ここは大学の教室。
たくさんの学生に向けて話されている。
そのはずなのに。
なぜだか先生に直接問いかけられているように感じる。
そんな授業。

「あなたは、どう思いますか？」
授業の真最中。
突然先生にマイクを向けられた。
「えっ。私？」
ひどく動揺した。
どうしよう。たくさんの人の視線を感じる…

頭が真っ白になった。
発言した内容は、頭が真っ白になりながらも
その場で一生懸命に考えた私の意見だった。

こんな意見、きっとみんなに笑われちゃうな。
そう思い、恥ずかしさで顔が熱くなった。

しかし先生は、私の発言を真剣に聞いてくれた。
そして驚くことに、恥ずかしいと思えた意見から、
新たな問いを生み出してくれた。

私は、これまでどんな問題にも、
何か一つの正解のようなものがあるのだと、
漠然と思って生きてきた。

しかしそんなものは、現実には存在しないのかもしれない。
人の数だけ正解は存在するはずだという事を、その時深く感じた。

先生の授業には、1つの正解は存在しない。
学生は自由に考えを巡らせ、それらを発言することができる。

もしかしてこれこそが、大学の授業なのか。
大学って、そういう場所なのか。
心の中でそう思った。

授業が終わると、教室がまたザワザワとし始めた。
もう一度私は考えた。

大学の授業に、1つの正解は存在しない。
大学の授業は、頭の中で自由に考えを巡らせることができる。

ザワザワする中で、わくわくしている私がいた。
ザワザワする中で、心躍った。

なんだか、すごく楽しくなってきた。
そう思いながら、私は大教室の重い扉を開けて外に飛び出した。

[審査講評]

大教室でマイクを向けられることの緊張感、同時に考えを巡らすことの充実感がよく伝わってくる臨場感ある作品でした。「1つの正解がない授業」だからこそ、学生一人一人が深く考え、それらを教員が引き出すことが重要になってきます。そんなコミュニケーション豊かな授業を増やす努力をしていきたいですね。



国際文化学部 国際文化学科 3年 川尻 知佳

ジグソーパズルな授業

私が今までに「受けてよかったナー」と感じることでできた授業はいくつか思い浮かびますが、その中で「これは面白い。受けてよかったあー!!!」と大満足することのできた授業は、今のところたった一つだけです。私はこの授業のやり方を考えた先生のことを今でもずっと尊敬しています。

そこで私の体験した「ジグソーパズル」な授業を紹介します。

当時私が履修したA先生のとある授業は、大教室で行われる講義形式でした。A先生のこの授業では、毎回必ず「課題」が出されます。これは先生の用意したある質問に対する自分の意見を紙に書き、授業時間内に提出する、という単純なものです。しかし先生の考えた質問の内容、これがまた「意味不明」なものばかりなのです。どのあたりが「意味不明」なのかと言えば、実際に行われる授業とは直接関係のないような質問を用意するところなのです。次の週になると、先生はきちんと先週の課題の解説をしてくれるため、課題それ自体の答えについては理解できますが、その説明だけでは何となく腑に落ちません。私は「なぜいつもヘンテコな質問ばかりするのだろうか?」、「この課題は授業とどう関係してくるのか?」という疑問をずっと抱いていました。毎回私たちに課されるこの課題に隠された先生の意図に私が気付くのは、それから約半年が経ってからのことでした。

先生は授業中に度々、こんなことを口にしていました。

「皆さん。なぜ私が授業と直接関係の無い内容で、しかも毎回めっちゃくちゃな課題を与えるのか、疑問にお思いの方もいると思いますが。」

そこまで言って、にやりと微笑む先生。この瞬間、先生の意図する内容がまだ理解できていないことから、正直ちょっとくやしい思いをする私。そのためこのセリフを聞く度に、私はいつも「はやくその答えを知りたい!」と思うようになり、先生の発する言葉の一言一句に注意し、以前にも増して集中して授業を聴くようになりました。

そんなこんなで、気がつけば授業最終日がやってきます。

最後の授業では、今までやってきた内容の復習と重要なポイントのまとめ、そしてこの授業における最大のキーワードであり、且つ「ナゾの課題」に関するヒントについて説明されました。それは次の言葉になります。

「『全体』は複数の『要素』が集まって初めて成立するものであり、また、それら全ての『要素』は互いに関連している」

…あ、なるほど!

その時、電撃のようなピリリとした感覚が私の脳内を駆け巡り、あちこちに散らばっていた数々の断片的情報が一つに収集されていき、頭の中でひとつのジグソーパズルが完成するような瞬間を味わいました。それと同時に、今までずっとモヤモヤと気になっていたものがすっかりと消えて無くなりました。ようやく私は、先生の考えたナゾの課題の意図を理解したのです。

A先生の授業の実態は、つまりこういうことです。

この授業にはさまざまな重要なキーワードがありました。その中において最も大事なキーワードとなる言葉(概念)を、先生は授業の最後ギリギリまで秘密として残しておきました。ですが、実はその最も大事なキーワードにつながる要素をほんのちょっとずつヒントとして毎回の授業内容に含ませていました。つまり、「一見授業に関係なさそうな、ヘンテコな内容の課題」の正体です。そしてこれが、「全体」の中の「要素」の一部になります。生徒たちは授業回数を重ねるに連れて、先生の散りばめたたくさんの大事な「要素」を知識として蓄えていくことになります。そして最後の授業時に、先生が今まで隠していた最大のキーワードを公開しますが、そこではじめて生徒はこれまでにやってきた授業の中の大事なキーワードが(=要素)であり、これらがすべて大事な全体の一部であることに気がつきます。言い換えれば、この授業に初めから終わりまでしっかりと出席した人は、この「パズル」に気が付き、その結果より深く授業の内容を理解することにつながります。

私はA先生の考えたこのような授業の展開の仕方がとても上手いと思いました。このようにパズルのような要素を授業に取り入れた先生のねらいは、次のようなものだと私は考えます。

「教員は答えをすぐに教えるのではなく、一見ヘンテコで微妙なヒントを与えることにより、ひたすら学生に頭を使わせて考えさせる。その結果、生徒自らが自力で答えにたどり着けるようになり、また、重要なキーワードを通じて授業内容の正しい理解を目指す」。

また、「ヘンテコなヒントを与えることは、学生の授業に対する意識や興味をひきつけることにつながるため、効率の良い授業展開に期待できる」。

A先生の授業を受けたことによって、私は自分自身の物事を考える思考能力がアップしたような気がします。それが、この授業を受けてよかったなと感じた一番のポイントです。

[審査講評]

「謎」は好奇心と探究心の原動力。それをうまく使った授業展開の工夫の素晴らしさもさることながら、筆者の文章力・構成力・対象把握能力の高さに感心しました。授業のねらいの分析的確で、まさに「学生がひたすら頭を使い、自力で答えにたどり着く」ことを狙ったこの授業の成果が、筆者によって論証されているといえます。



社会学部 社会学科 4年 氏名非公開

少人数授業、超最高！

憧れのメンバーたち

「この結果、研究者でも出たら驚くよ。面白い」

「ちゃんと書いてね。私を書く論文の中で引用するから」という教授の声。

「この話面白いね」

「(論文の内容について) 幸福ってどんな時に感じますか」と質問してくる学生の声。

これらのセリフは、私が受講した少人数形式の実習の授業であったものである。この授業は通年で行われていたが、前期は、グループで実習を行う上で必要となる研究手法を学び、それを後期で行う個人論文の執筆に活かすという方法で行っていた。この実習はきつい授業と位置付けられているが必修科目ではない。そのためなのか、実習のメンバーは、ゼミ、アルバイト、サークルを掛け持ちをして忙しく取り組んでいるにもかかわらず、「きつい」といった弱音を吐かず、やる気を持って取り組んでいた。

彼らはディスカッションの際には、次から次へと意見を述べていくのでついていくのに私は苦勞をしていた。そこで、私は予習と復習により力を入れて理解できると、お昼休みに集まってディスカッションをするのが楽しくなり、時には何時間も一緒に取り組んだ。またグループのメンバーが理解していない時には、私が教えるようにもなった。彼らと接しているうちに、私は学ぶことに対して真剣に向き合うようになり、憧れの存在になった。

主体的に学ぶということ

彼らは、後期の個人論文の執筆でも真剣であった。最終的な論文提出までに2回提出する機会があるのだが、第1回目の論文提出の際にメンバーはそれぞれ「レベルの高い論文」と教授に褒められる論文を提出していた。彼らの論文を読んだところ、時間をかけて、よく考え、効率的に取り組んでいるなど感じた。

一方の私は、論文執筆をする上で必要となる仮説をうまく分析できない状況で、論文としてまとめて提出をした。論文提出の際には、教授と通年参加されていた大学院生のTAの方もひとりひとりの論文を読んでいた上でコメントをつけて返却するのだが、その

際に教授が全体に次のようにおっしゃった。

「学部生のレポートとしては優れているけど、研究論文としてはまだまだ。『人間は考える葦である』という言葉もあるように、自分の頭で考えて、客観的に立証された論文を執筆することが大切です」

この教授のコメントやメンバーの取り組みから、私は「いろいろ考えて仮説を分析して、メンバーみたいな論文を執筆しよう」と決心した。そこで、①授業の空き時間は履修者しか利用できない実習室に行き論文に向けて取り組む時間として使い、②教授やTAの方にも質問をして、③メンバーとのやりとりも大切にして役に立つことは論文執筆に反映させた。

①については、履修者専用の実習室で行われていたため、落ち着いた環境で作業ができ、文献や先輩方の報告書なども置かれていたため論文執筆で行き詰まった際には参考にできた。そこで、私は、2限～4限まで作業をしたり、メンバーの中には学部が閉鎖する21時頃まで取り組んでいた人もいた。

②については、教授と大学院生のTAとの距離が近く授業中は質問しやすい関係にあり、授業外でもメールで質問に対してお答えいただいたりもした。そうすることで、考えの幅を広げることができた。

③については、研究の取り組み方や仮説の分析方法などをメンバーから学んだ。とくに、「すぐにわからないことを調べる」、「先行研究から学べることが多いこと」、「とにかく粘るといふ姿勢」ということを学んだ。また、同じように仮説が検証されないメンバーとの悩みを共有したり、論文作成に困っていた後輩の対応もした。

このような授業環境を利用することで逃げずに仮説と向き合え、さまざまな発見があり面白さを感じた。最終的に、当初作成した仮説からは想定外のことがわかり論文の内容を濃くすることができ、教授から「力作」とコメントをいただいた。

まとめ

「この結果、研究者でも出たら驚くよ。面白い」というやりとりを聞いていたとき「教育とはこれなのでは」と感じた。教授と学生が学びに対して楽しさ、面白さを感じている。それは、学生が主体的に取り組んでいるからこそ生まれる発見であり、それを教授がしっかりと受け止めてくれるからこそ生じるものなのではないだろうか。教授と大学院生の教育に対する姿勢、メンバーひとりひとりの学びに対する主体性がこの授業を支えていたため、まるでゼミ以上のきつい授業であったにもかかわらず、彼らから影響を受けながら、私はこの授業で主体的に学びに向き合うことができたと思う。このように最先端の知識と豊富な経験を持つ教授と、大学院生のTA、そしてメンバーから近い距離で学べるということは少人数授業でしかできない貴重な経験である。

最後にこのような素敵な授業をしていただいた、教授、大学院生、実習のメンバーの方々に感謝を申し上げたい。本当にありがとうございました。

[審査講評]

少人数授業における教授やTAのきめ細やかな指導の下、主体的に学ぶメンバー達に囲まれる中、自らもそのメンバーの一人として真剣に学ぶことに向き合い、成長する著者の姿がいまじきと描かれています。「履修してよかった!」と感じるような授業の核をなすものは何か、示唆に溢れた作品です。



国際文化学部 国際文化学科 4年 中山 亜美

うけてみたい

“理想の授業“とかけまして、”売れないお笑い芸人と説きます。

その心は、どちらも”受け(ウケ)てよかった、受け(ウケ)てみたい“です。

・・・なんちゃって。教職員室から一歩足を踏み出して、壁にかけられたポスターを見ながら、謎かけなんて考えてみる。こんなセンスだから、学生時代のお笑いサークルでも、てんでウケなかったのだ。苦笑しながら教室へと向かう。学生が「受けてよかった、受けてみたい!」と思う授業か。教員になってからも、私の授業が、学生にウケているのかは定かではない。ふと視界に入ってきたポスターは、より良い授業について考える学内機構の物だ。いったいどんな授業ならばよいというのか、そんな事、私が一番知りたい……。

なんて思っている先生もいるかもしれません。

私は、現在第4学年となり、これまで3年間、大学で講義を受講し、今年度初めて教授のアシスタントという立場で、授業を中立的に見つめる場面を持ちました。このような、より良い授業や、私語のない授業について考える散文を書こうとしている訳ですが、私自身授業中に友人と私語をしてしまった事が幾度もあります。

ところが、いざ自分が教える側に近い立場になってみると「何故こんなにも一生懸命教授が用意してくれた授業を聞かないで喋っているのか」「ここはとても面白い所なのに」と思う事もしばしばです。お恥ずかしい話ですが、私はこのような立場に立って初めて、教える側の気持ちを考えて、その末端を知りました。

大教室の授業ではざわつく事もありますが、学生達が、必ず神経を集中させる場面があります。それはリアクションペーパーを記入している時です。どこが面白くて、どんな風に興味を持ったのか、また、時には疑問に対して返答をもらえた時、彼らの意識は教員の言葉や画面へと集まります。

普段の会話でも、自分の話が相手の心に届いている事を感じると、互いに熱を持って話し合い、分かり合えると思います。教室ではその感情のやり取りにちょっとした距離があいてしまっています。そんな距離を縮めて、互いに双方向性を持つことが出来たら、授業はきっと違った物になる事ではないかと思えます。

さて、皆さん。「受」という字の意味を辞書で引いてみた事はあるでしょうか。もらう側は“受”、渡す側は“授”と言い、受けると授けるは同じ動作の両面にすぎないのだとあります。

授業とは「同じ一つの“業”を先生と生徒がやり取りして作り上げる物」。お笑いの舞台のように、場がウケなければ、披露する側も調子も出ない事でしょう。時には疑問に思った事につっこんで、面白い話にはリアクションを返して。そんな風にコミュニケーションを図れる授業なら、きっと互いに「受け(ウケ)てよかった」そう思えるのではないのでしょうか。

【審査講評】

大学4年生になり、今年度初めて体験したティーチングアシスタント。学生の立場から一歩、「教える立場」に踏み込んだ瞬間、教員側の気持ちも少しだけ理解できたようですね!また、大教室授業でのリアクションペーパーの活用も教員として個々の授業での「工夫」のポイントですね!本作品の「受」の立場から「教員と伴に創る」コミュニケーションの重要性を、是非、一度考えてみてください。



文学部 日本文学科 2年 氏名非公開

おのれをみたす

もし就職活動で『何故日本文学を研究をするのですか』と問われたら、胸を張って、自己満足と答えなさい。

受けて良かったと思える授業、という題目で拙文をしたためるべくキーボードに向かったとき、論旨はずれずとも知れませんが、まさききに脳裏に浮かんだのは、とある日本文学の講義で先生が口にされた一言でした。

文学部日本文学科。私の所属する学科は、その名の通り日本文学、そして日本語を扱う学科です。私は高尚な目的を持って、この学科に入学したわけではありません。幼いころから本を読むのが好きで、日本語の美しい表現に触れることに楽しさを覚えるたちではありましたが、理系科目が嫌いで、英語が苦手な結果、消去法めいた考えで学科を選んだと言われても、否定はできません。

ゆえに専門科目の講義内容に心惹かれながらも、時折、とある思考が頭をよぎりました。私がこの大学生活で研究したことは、一体どこに還元されるのだろうか、なんの役に立つのだろうか、と。就職難の叫ばれるこの時代に、私は一体何をしているのだとすら思いました。

そんなときに、講義の何気ない談話のなかで、冒頭の言葉を先生が述べられたのでした。ふっと、胸が軽くなるような感覚がありました。自分の為に好きなことを頑張っていんだ、と。もちろん、簡単なことではないだろうけれど、それゆえに、さきにつながるのだと思いました。

カーテンの合い間からほのりと夕陽のさす教室で、澁みのない朗らかな口調で紡がれた言葉は、すんと私のお腹の奥底に着地して、心地の良いあたたかさともにもいまも存在しています。

受けて良かったと思われる授業に定形はないと思います。ただ、私はこの学科で、近代文学のさりげない表現に潜む著者の思考や、古典文学の未だ解き明かされぬ多くの謎を垣間み、それらに対する先生方の熱意と真摯な姿勢に触れるたびに、満たされた気持ちになります。

そして、いずれ、自らの研究、おそらくは卒業論文でその感覚を味わいたい、味わうんだと、ひそかな決意を胸に抱いている次第です。

【審査講評】

学問は、すぐに答えの見つかるものではなく、またすぐに役立つ実用性・有用性を必ずしも持ちません。ことに文学などは、一生かかって答えを探し、実用という功利とはまったく別のところに意味があります。「自分の為に」「好きなこと」を「ことごとく追求すれば、いつかどこかで人生と学問が「つながる」瞬間が必ず訪れるはずですよ。



国際文化学部 国際文化学科 4年 池田 ひかり

真のコミュニケーション

私が4年間の間に1番受けて良かったと思う授業は2年次で受講した「英語コミュニケーション」という授業である。授業名を聞くと、どこの大学にもありそうな普通の授業である。しかし私の受講した英語コミュニケーションは斬新で少し変わった授業であった。この授業では1年生から4年生までの学生が受講することが可能で、約30名という少人数で授業が行われた。少人数のため授業中の雰囲気はアットホームで、後輩や先輩とも仲良くなることが出来た。勿論、同学年の学生とも仲良くなる事が出来、今でも休日に遊ぶほどの仲である。

この授業の面白さは「楽しみながら自然と英語を学ぶことが出来る点」である。教授は30人の学生をランダムに5人程のグループに分けた。そしてグループごとに好きな飲食店に行き、食事をし、そのお店のメニューや雰囲気を英語でプレゼンテーションするようにと課題を出した。私達のグループは普段あまり行かないお店で、且つ日本の文化を紹介出来るお店にしようと考えた。そこで秋葉原にある「戦国メイド喫茶」に行き、そのお店についてプレゼンテーションをすることにした。私はその時初めてメイド喫茶に行ったが、非常に面白く楽しい時間を過ごすことが出来た。おそらくこの授業を受けていなければ、一生メイド喫茶に行くことは無かったであろう。さらに「戦国」というコンセプトのお店だったため店員が袴を着ていたり、金の茶室があったりと異空間を体験することが出来た。

その後、私達のグループは戦国メイド喫茶についてプレゼンテーションの準備をした。私はどちらかというと受身な性格で自分からリーダーのような立場をやることは無かった。

しかし、この面白いお店を学生や教授に伝えたいという気持ちになり自発的にプレゼンテーションの準備をすることが出来た。この授業に関しては全てが学生に委ねられていたため1から私達が授業を作るという点が非常に面白かった。プレゼンテーション当日は英語を話すだけの発表では無く、メイド喫茶での体験をジェスチャーで表現し、実際に写真を見せるなどしてプレゼンテーションをする側も聞く側も楽しめるよう努めた。

発表は大成功し、私達のグループは達成感に満ち溢れていた。発表を聞いてくれた学生や教授にも楽しんでもらうことが出来、日本の文化を広めることに成功した。私はこの授業を受けて良かったと心から思っている。プレゼンテーションのために英語を勉強したため語学力を向上させられた。さらには新しい発見や、仲間に出会うことが出来た。このような授業がより増えて欲しいと願うばかりである。

[審査講評]

まさに「受けて良かった！」授業ですね。ランダムなグルーピングによる偶然の出会いから、知らない学生同士での意見の擦り合わせ、フィールドワークによる外部との触れあい、そして英語によるプレゼンテーションと、まるでコミュニケーションの玉手箱のようであり、履修したことでの達成感や充実感がよく伝わってくる作品でした。



法学部 国際政治学科 2年 御領原 真紀

学問に 疑問を持った 仲間たち 互いに教えて 学び合う

大学に入ってやりたかったことの1つが「ゼミナール」でした。

2年から始まったゼミは毎回、貴重な時間であり、いろんなことを考えて意見を深める場です。私が所属しているゼミは先輩と後輩がいる中で学年に関係なく、分からないところを教え合い、意見を交わすことで広い視点から物事を見ることができます。

この2年間の学びが先の人生で、判断指標の糧になると確信しています。「何を学べるかではなく」、「何を学びたいのか」という自主性と仲間の意見を聞いて自己主張できる協調性が養われる「ゼミナール」は大学の極意であると考えています。

以上の思いからこの作品を制作しました。

[審査講評]

ゼミナールの中で、メンバーが問題関心をもちよってその場にのぞみ、分からないところを教え合い、意見を出し合うことを通じて、広い視点から物事への思考を深め、自主性や協調性を養っていく姿を描いた作品です。長いようで短い大学生活、大学ならではのゼミナールに、存分に取り組んでみてください!



法学部 政治学科 3年 伊藤 瑞木

理論と実践のゼミ

今日学んだことを
明日は体験してみる

たくさん失敗して
たくさん成功して

ただの知識じゃなくて
自分の肌で感じる

それではじめて真の知識になるんだ
切磋琢磨し合った
思い出のゼミの授業

[審査講評]

失敗や成功を体験し切磋琢磨し学んだ、思い出のゼミ、社会人になったとき実感する。そんな光景が浮かんできます。大変だったかもしれないけど、まさに受けて良かった!受けてみたい理想の授業といえるのではないのでしょうか?



人間環境学部 人間環境学科 1年 齋藤 航輝

全員学生、共演授業

私はこれまでの学生生活の中で受けてよかった授業は「フィールド・スタディ」です。

「フィールド・スタディ」の魅力は、教授も含め、参加者全員が「学生」である点です。実際に足を運ぶことでしか得られない新たな発見や出会い。参加者全員がその地域から学ぶのです。

年齢・性別はもちろん、教授・学生の垣根を超え、胸と胸を突き合わせて議論を戦わせたときのあの感覚は新鮮かつしびれるものがありました。今までの「勉強」とは違う、「学問」の感覚を養うことができました。

普段の講義は教授がマイクを独占しがちです。どうかそのマイクに学生の声をのせていただきたい。自然と教室の緊張感が高まり、私語は消え、意欲のある学生が教室に残るでしょう。教授の「一人芝居」ではなく、教授と学生の「共演授業」を期待します。

[審査講評]

年齢、性別はもちろん、教授・学生の垣根を超え、みんな「学生」として学ぶことができるフィールド・スタディ。新たな出会いや発見、議論を戦わせることで得られた「学問」の感覚、フィールド・スタディの魅力がよく伝わってきます。教授と学生で創り上げる「共演授業」ぜひ受けてみたい授業ですね。



理工学部 機械工学科 3年 氏名非公開

先生と 熱い議論を 投げかわす

授業終わりの 数分間

[審査講評]

教員と学生との「熱い議論」は、教員としても非常にうれしいものです。授業形態は問わず、授業内やゼミ等で数多くのものを「伝えたい」、「主体的に考えてもらいたい」、「体験してもらいたい」、そのための「授業内の工夫」も多くの授業で実践されています。教員からの授業内での「ヒント」や「メッセージ」を活かして、是非、まわりの学生さんと一緒に「熱い議論」を楽しんでみませんか！

座談会レポート 「受けて良かった!受けてみたいこんな授業」

第5回FD学生の声コンクールの受賞者とテーマについて座談会を開催し意見交換を行いました。座談会は、一時間半にも及び、熱く活発な意見が飛び交いました。その模様の一部をご紹介します。



🎤 今回の応募作品の全体傾向としては、授業における「コミュニケーション」を扱う作品が多かったと思います。

いろいろな授業の形式があると思いますが、作品のテーマでもある、こんなのは良かったなとか逆に悪かったとか印象に残っている授業はどんな授業でしょうか？

—印象に残っているというと、先生に直接マイクを向けられて「あなたどう思いますか？」と学生の意見を求めにマイクを向けてくる先生の授業です。

単に、マイクを持って一方的に講義をする先生とは異なる、違う空気が生まれ、授業の雰囲気が変わるのではないかと思います。やはり、いきなりマイクを向けられるとドキドキするので前に座りたくもないけれど、その行為には教員の思いも含まれていると私は感じます。

授業では、先生からの一方的な問いかけだけではシーンとしてしまいますが、実際にマイクを向けてみると結構良いコメントを喋る人が多い印象があります。自分の意見を述べ、深く考えることが、今まで高校、中学の授業にはない、それこそが大学らしい良い授業だと思います。

ただ、一方でこちらも緊張して、心臓をバクバクさせながら一生懸命意見を言ったのに、

「はいそうですか、では次の方」と言ってしまうような先生は残念に思います。

たとえ学生の発言が稚拙な意見でも先生の感想、アドバイスが欲しいです。質問をした先生がその後、どの様に、質問に対し対応するのか…その行為で、マイクを向けられたときの学生の緊張感が違うと感じています。この先生は、自分の意見を受け止めてくれる先生だと思えば、自分の意見を言いやすくなるし、手も挙げたくなるし、授業の後、話したくなるのだと感じます。

🎤 講義科目は、教員側からの一方向な授業になりがちですが、やはり、教員とのやり取りができる双方向性は重要ですよね。

—私がいいなと思った授業は、心理学の授業です。

必修であるのと先輩のススメで履修しました。その先生の授業は、全然授業と関係ない話を混ぜながら、フレンドリーに話してくれます。いつもにこにこして話しても柔らかく堅くなくて好感が持てました。

それでも教室の後ろの方でしゃべっている学生に対して一喝することがたまにありました。先生も時にはため息をついて「甘やかし過ぎてもダメなのですね」と言っていました。そんな言葉を耳にすると、先生も悩んでいるのだなということがわかりました。

—難しいことですが、やはりバランスも重要ではないでしょうか。先生が学生になめられないようにする必要もあると思いますが、ガチガチの授業も、学生のモチベーションが下がるのかもしれないですね。

🎤 レスポンスと双方向。教員と学生の距離は、難しいですね。質問を変えて、授業で教員のフレンドリーさは必要でしょうか？

—授業の中では、先生は主役なので、威厳は必要、馴れ合いになるのは、良くないと思います。

—考えさせる授業を作ることが重要ではないでしょうか？ 教員のフレンドリーさより、教員の個性も重要なので、無理してフレンドリーにする必要はないと思います。

🎤 学生に考えさせるのは重要ですね。例えば、今回の受賞作品の中に、全く違うキーワードを挙げながら勉強をしていき、最後になると全体像がわかるという作品がありました。教員側としては、一生懸命考えてもらいたい、それが身になると思っています。では、どうすれば学生がもっと考えるようになると思いますか？

—興味を持てると一生懸命やれるのではないのでしょうか？ その意味では、易しいほど良いというものではなく、むしろ学生にとってある程度難解な方が良いのではないかと思います。

🎤 受けて良かった授業、受けてみたい授業について、引き続き聞いてみましょう。

—私が2年時に履修したゼミナールは、楽しみでもありましたが課題も多くて、事前に自分で問に対して考えてくる必要がある授業でした。

そのため週末は、図書館に行って考え、ゼミに来たときに意見を交わし合っ、いろいろな視点から考えて意見を言い、先生が最後にこういう見方もあると講義してくれて総括してくれる。いろいろな意見を交えることで、大学に入って刺激になった良い授業でした。

—ゼミのグループディスカッションで学ぶことは多いと思います。みんなで考えた方が吸収できる量が多く、最後に、先生にまとめてもらうと、道筋ができるのでおすすめです。

そういうタイプの授業では、要所々々で答えではなくて、ヒントを与えてもらう方がよいかもしれません。そうすると、自分で考える。さらに興味を持てると思います。



—中学・高校と大学の授業が違うのはわかったつもりではいましたが、実際に受けてみて、初めてその違いを知ることが多かったです。

一つのきっかけになったのは、フィールド・スタディの授業です。先生方がこういう姿勢で学問することが大学の教育なのだという実地での教えから、大変勉強になりました。

—先生方にも授業計画がある一方好きな分野についてはやはり詰め込みたくなるのはわかりますが、それをセーブして学生が入り込む余地があると嬉しいと思います。

—私が受けて良かったと思った授業は、授業の最後にミニッツペーパーというコメントペーパーを書かせる授業です。ミニッツペーパーを配って学生に書かせ、回収するという行為は、出席をとるという意味もあると思うのですが、出席よりも自分の意見を聞いてくれるという先生の姿勢が嬉しく思います。ミニッツペーパーを書くことによって、先生の講義を全部正解として聞くのではなくて、自分の意見を持ち、話題に敏感になる姿勢ができる。このような学生が参加できるような授業が良いかなと思います。

🎤 コメントペーパー（ミニッツペーパー）は、学生の意見が即効性のある形で反映させることができると思いますが、学生側は書くのは負担ではないのでしょうか？

—面倒なときもありますが、私がとっている授業では、ミニッツペーパーを実施した次の授業の冒頭で、先生がコメントして下さる場合もあり、ラジオを聞いていて自分のはがきが読まれるような感覚になります。

読まれなかった人も、つぎは、読まれる文を書こうと思いますし、先生とコミュニケーションを取りたいという思いもあります。

—急にマイクを向けられて自分の意見を話すのは大変ですが、文字でコメントを書く方が書きながら頭の中で考えを整理できるので良かったです。

—私が受講したフィールド・スタディの授業の例ですが、地域に足を運んで、自治体の人や、地元の人に話を聞くと、やはり、その都度発見があります。

—私の所属学部では、必修で2年生のときSA（Study Abroad）に行きますが、そのとき感じたのが、海外の同学年の人は、みんな積極的に発言していることです。

一方そのときの自分自身は、経験不足と性格が相まって、自分の発言に後悔することがありました。先ほど出たコメントペーパーは、言葉を頭の中で整理して書けるのでありがたいと思いますが、その場で発表することも重要ではないかとは思っています。

—授業に緊張感は、必要だと思いますが、できれば意見を言いやすい温かい雰囲気を作れるとよいですね。

話しやすい雰囲気、みんなが意見を自主的に出しやすい雰囲気、自然に巻き込まれる雰

雰囲気。授業にみんなが自然に巻き込まれた形で、自分で自由に意見が言える授業が良い授業だと考えます。

🎤 **今話題に出ました、「話しやすい雰囲気」についてですが、グルーピングも重要だと思います。例えば、座席についてはどうでしょうか？**

—やっぱり授業を受ける際に友達も一緒に授業を受講していたら、隣に座るのが自然な流れです。一方、慣れた関係なのでグループ内の会話に慣れ合いが生じるのも確かです。なので英語の先生は、授業内でグループ作業をする際にはグループを変えようとする人が多いです。

先生が1、2、3と言って学生を指していきグループ分けをして、その場ででき上がった即席のグループで意見交換をすると、普段の友達同士ではない意見が得られるので、良いやり方だと思いました。

—私も、座席指定の授業のメリットとしては、普通に過ごしていたら話さない人と話すことができるので、視野と友達が広がるなどの効果があると思います。

—英語の授業は、会話をする授業なので友達同士のグループの方がうまくいく場合もあるし、一方でバラバラのグループの方がよい場合もあると思います。

🎤 **授業に絡めて、私語をなくすための学生ならではのアイデアはないでしょうか？**

—具体的にこれとは言えませんが、私語をしないのは先生の話が好きになったり、話に興味を持ったときだと思います。

—先生がみんなに語りかけるような一方的な講義でなく、巻き込むような授業では私語が少ないように思います。あと、いろいろな人と、強制的に話せる機会が作られると効果的かもしれません。

—学生は飽きると、私語をしてしまうこともあるのだと思います。先生もめげずに訴えかけて欲しいです。効果があると思います。

🎤 **やはり、私語と受けたくなる授業というのはつながりがあるのかもしれないですね。**

—私語をしている人を静かにさせるというのは、マイクを向けるなどの単純なことだけではなくて、今まで、先生に努力してもらいたいということも言ってきましたが、やはり学生の側も努力しなければならないのではと思います。

なぜ私達が学費を払ってまで大学に来ているのかというと、やっぱり何かこれからの人生で得たいものがあるからですし、何か新しい発見を学ぶために来ているという前提があると自然に授業中に私語はしなくなると思います。

—私語をするのは、その人達の意欲の問題もあるのではないのでしょうか。自発性というか学生の側にも努力が必要だと思います。授業に対する意欲が足りなくて、大学の授業は高校までとは異なり双方向でやっていく方法しかないのではないかと思います。

—教室の作りが、縦に長いのも私語が増える原因の一つかもしれません。前のブロック、中位のブロック、後ろのブロックで分けると、意欲が席順に現れています。

例えば、座席の配列を横長にすれば、各学生への先生からの距離が近くなるので私語が減るのではないのでしょうか？教室環境を変えるのも手ではないのでしょうか？

—人間は、集中できる時間は限られています。誰も知り合いがいないと黙っていられますが、知り合いがいると、ちょっと集中力が切れた途端に、関係ないことを話してしまいます。その意味で、私語をゼロにすることは難しいですが、最低限、みんなが集中して授業が受けられる様にするために、例えば授業中に私語で大笑いしているようなあまりにひどい学生は、先生がつまみ出すのが良いのではないのでしょうか？

🎤 **ありがとうございました。大変良い意見交換ができました。**



「受けて良かった!受けてみたいこんな授業」の授業例をまとめると、

- ・マイクを向けて意見を求める双方向コミュニケーション
- ・ゼミナールでのグループディスカッション
- ・コメントペーパーによる先生とのコミュニケーション
- ・フィールド・スタディでの学外の人とのコミュニケーション
- ・私語対策は、教員側の雰囲気作りに加え、学生の意識が大切

など、やはり、「コミュニケーション」が大きなキーワードになっていました。

教員学生ともに、少し意識をすることでもっと良い授業を作っていきましょう。

新入生の皆さん、大学の授業に関するディスカッション、いかがでしたでしょうか? 今まで学んできた、中学、高校とは違う形の授業、学びの場として、双方に実りのある授業を創るために教員と学生の皆さんで協力し合い、努力をしています。ぜひ、皆さんもこれからの大学生活の中で、大学らしい授業を先生、友人と共に作っていただければと思います。



座談会に出席してくれた第5回FD学生の声コンクール受賞者の皆さん



法政大学 学習支援ハンドブック2013

編集・発行：法政大学教育開発支援機構FD推進センター
©Hosei University 2013 Printed in Japan
発行年月：2013年4月1日

撮影協力：『法政文芸』編集委員